



諸國  
會  
年中行事大成

76  
3382  
1



3382  
1

速水春曉齋畫圖

諸國  
圖會

年中行事大成

全部六冊

浪華群玉堂製本

皇朝曾制禮四海  
壯觀多今日豎圖  
畫羊李如感何

富小路正三位

丹部卿藤原貞直題

富小路正三位

凡例

一 毎月甲子と先本奉納の日並の定むるを以ての故なり此より日並次第は  
 姓吉の例日並考より改む高附の例日並考より改む高附本編に  
 一 内此所仍奉納の例日並考より改む高附の例日並考より改む高附本編に  
 及び村岡の例日並考より改む高附の例日並考より改む高附本編に  
 一 親しむる愚考を加へ今按の字とて之を断之  
 一 毎条其頭小圖を以て三行法玉の終を以て城國中の寺社と京師小橋氏先  
 小出の書此例は例日並考より改む高附の例日並考より改む高附本編に  
 一 必被地小出の例日並考より改む高附の例日並考より改む高附本編に  
 武列のころもこれ小出の例日並考より改む高附の例日並考より改む高附本編に  
 一 卷中此圖画を於て高附の例日並考より改む高附の例日並考より改む高附本編に  
 一 屈曲して盡くすも其次第より改む高附の例日並考より改む高附本編に  
 漏るると後編小出の例日並考より改む高附の例日並考より改む高附本編に

諸國圖會

年中行事大成卷之壹

正月之郡目錄

立春 記事

初寅 鞍馬詣 未

初卯 杖 故事

初申 柞居籠 未

亥日 松尾山神祭 未

三申 春日御田植 大和

下子 上賀茂燈籠祭 未

元日

四方拜 齋垣 未

祭儀 白散 未

諸社神供 未

綿天神祀帳 未

鞍馬牛王加持 未

比叡山渡心會 未

泉涌寺舍利開帳 未

法藏寺源寺秋考祀帳 未

東寺之伴堂甚修諸寺院開帳 未

天王寺法堂 大坂

太子堂清朔飾 未

金堂舍利講 未

食堂万石茶祝 未

諏方蛙持 信法

人事

門松 大連飾 未

遠菜懸 未

春祭 大黒舞 未

毘沙門經例儀 未

八社村成 未

新穀 未

秋篠寺之元法 大和

實藏朝拜 未

新穀 未

二日

朝觀行幸 ぬま 御吉書始 不

拜礼 系

愛宕天狗酒盛 系

角倉家私系始 系

厨下 系

有馬入湯始 格法

試筆 汚始

馬系始 格法

摩那切始 系

私系始 格法

御吉月藥始 系

裏白連致 系

東寺私牛王 系

慈惠大昨忌 系

東殿山天恩湯 係

住吉踏奇 大坂

茗荷系 丹波

御幸始 系

蹴鞠始 系

鏡園 系

御倉預供物 系

葵事始 系

御新始 系

千寿翁系 系

御倉預供物 系

稲荷連連張 系

東福寺羅漢供 系

鞍馬寺三種宝持并帳 系

天王寺老子供 大坂

米市後儀商 大坂

芝明神系 江戸

白馬前舍 系

高基寺湖月尾云忌 系

七草 系

七日前舍 系

白馬前舍 系

清水与牛王 系

其面富 格法

勝尾寺家 格法

住吉白馬神夏 大坂

茶橋川神夏 大和

鍵引 伊賀

八日

女叙位 ぬま

女王祿 ぬま

御舞會 系

真言院御流法 系

大元昨法 系

祇園牛王 系

御敷出始 系

新薬師寺市 大和

九日

諸禮 系

居籠系 格法

蛭子系 大坂

伊予志系 格法

十日

貴私神供 系

十日研羹 系

蛭子系 大坂

伊予志系 格法

十日

常陸常神事 ぬま

奏事始 系

具足洗餅岡 不

握系光緒市始 系

十日

縣召除目 ぬま

奏事始 系

具足洗餅岡 不

握系光緒市始 系

十日

天王寺金堂新始 大坂

住吉御結鎮 大坂

直會系 尾張

上賀茂御棚飾 系

十日

稻荷武射 系

男踏奇 ぬま

十四日糺 系

上賀茂御棚飾 系

十日

飛園粥杖嶺民社三科枝 系

大津葦打 系

伊達墨塗 格法

外交御頭神夏 伊賀

十日

登園八樓水針 江戸

諏訪筒粥 格法

粥杖 不

爆竹在吉書揚 不

十五日

上元 系

小豆粥祝 不

粥杖 不

爆竹在吉書揚 不

十五日

御薪 ぬま

兵部手表 ぬま

日侍 系

八樓系 系

西七條田植神事 糸

三保明神系 博多松難子 筑前

十六日 女踏奇 糸 日野裸踊 糸

書父入 糸 不動宮定比 糸

妙見寺石賣 糸 念人 糸

十七日 射猪 糸 猪進頭 糸

十八日 左義長 糸 猪弓 糸

真福寺牛王 糸

十九日 鶴庖丁 糸 舞津覽 糸

八幡夜神齋 糸 知恩院淨忌 糸

廿日 廿日正月 糸 一夜官女 糸

廿二日 太秦大會 糸 廿三日 相馬妙見系 廿六日 鐵炮洲高輪月侍 糸

晦日 清水寺奉式連致 糸

牧岡粥占 河内 真福寺心経會 大和

七瀬川裸踊 糸 山崎舎合始 糸

真福寺猪起始 大和 西大寺茶盛 大和

天指立枕燈 丹波 十六楼 伊豫

新津靈射禮 大和

寶寺鬼雛 糸 西大寺詣 徳島

廿九日 沖會始 糸 大後 糸

目録早

諸國年中行事大成卷之壹

正月之部

立春

春高時乃初光音をこころあり漢律曆志曰少陽之東乃方本位

東の動なり陽事物成動一蠢めり是を春とらふと云う地を春の字

其元と蠢乃字形し成後春の字小能く云ふ万物發生して動さ出る意

なり和名乃春の字と云う也訓と張を意月ト々本陽氣を誘きて

張出ると云意乃和訓より漢土を意中しく異あり漢土の意と万物動小

對し皇朝の意と草木の芽を張小向たり蓋し春夏秋冬乃四時十二月と

りて一奉と一月と云ふの成始なる原漢古の制ありて何處の附も是と

定めたるや體也わづらふと云ふも書經堯典を按むる小堯帝は片小義仲

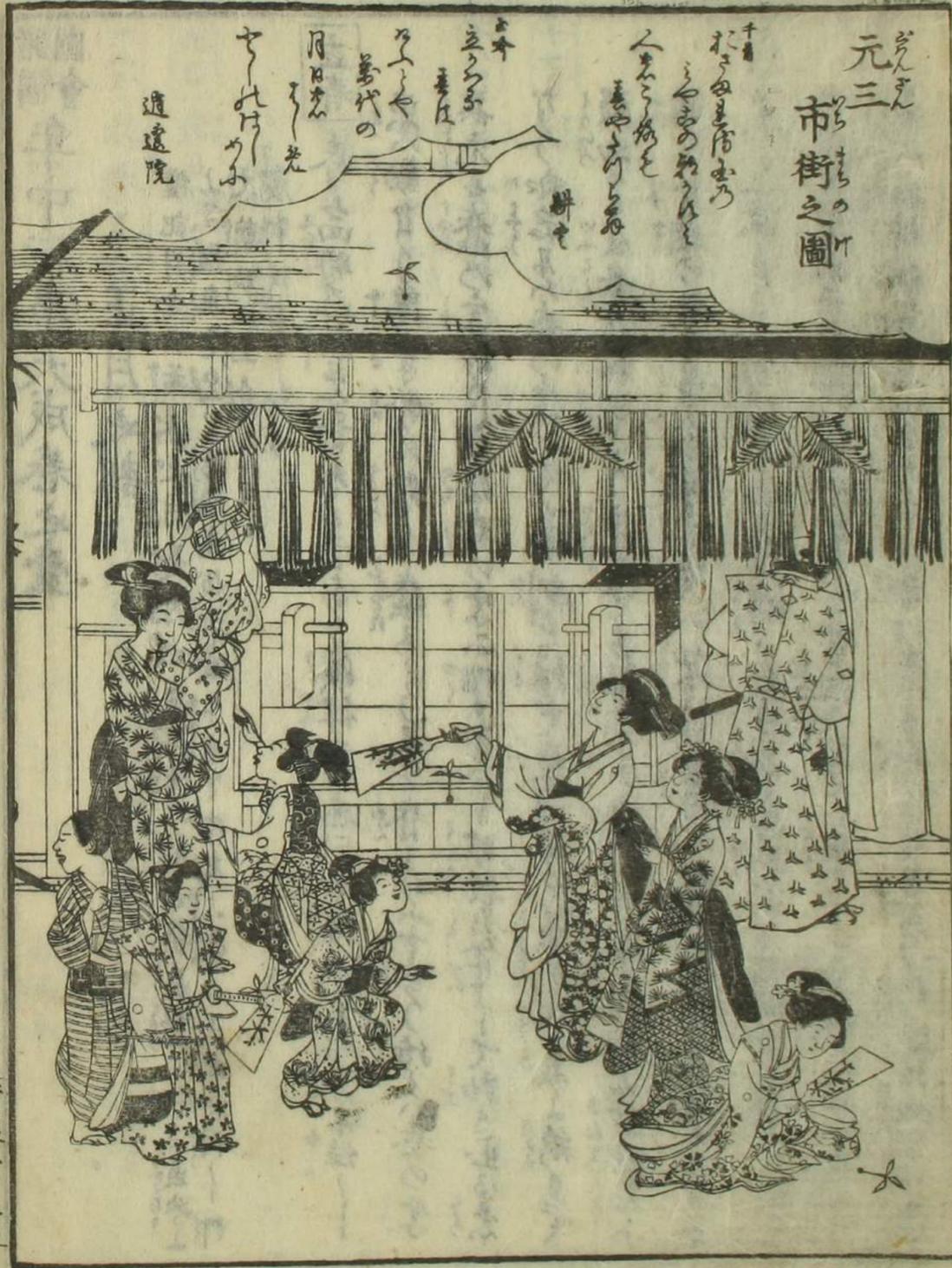
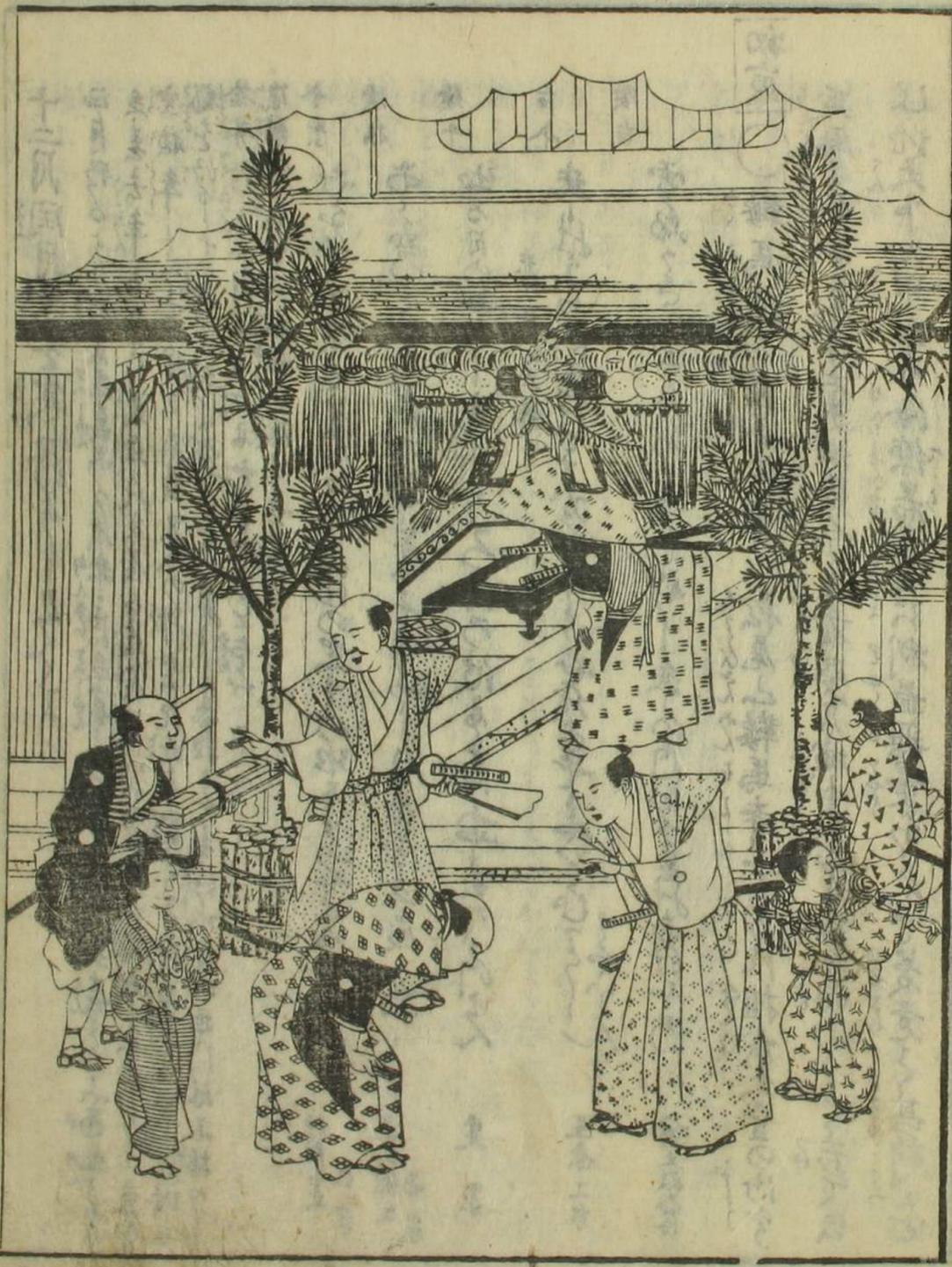
義叔和仲和叙と云ふのあり帝は仁月令トて日月乃乃道成測に四季

禮記月令云孟春之月是月也東風凍解之蟄蟲始振魚上冰雉始鳴

上之類魚を驚は雁來は天氣下夜を地氣上騰く天地和同州

木萌動は玉命トて

農幸は布しむま



元三  
市街之圖

千  
松  
白  
屋  
の  
中  
に  
お  
も  
て  
な  
さ  
し  
て  
お  
も  
て  
な  
さ  
し  
て  
お  
も  
て  
な  
さ  
し  
て

本  
ま  
る  
の  
ま  
る

あ  
の  
ま  
る

月  
日  
の  
ま  
る

す  
れ  
は  
け  
の  
ま  
る

道  
遠  
院

三十一

十二月月名を定らばより

正月朝のより... 又除日... 其年... 空... 福... 松...

今

打ひさ... 山河の...

勝...

續

あ... 一...

...

續

出... 月... 海...

定...

古

年... 月... 春...

生...

後

雪... 山... 年...

...

初寅

鞍馬詣... 松尾山鞍馬寺...

延暦年中... 中... 延...

比地天下... 甲... 乙...

知... 以... 放... 馬...

其地... 性... 鬼... 六...

得... 則... 一... 字...

寺傳... 南... 於... 相... 提... 支... の... 傍... 濫... 真... 實... 龜... 六... 年... 二... 月... 日... 初... 寅... 日... 毘... 沙... 門... 天... の... 像... 傳... 一... 字... 城... 創... 一... 字... 鞍... 馬... 寺... と... 号... 凡...

初卯

卯杖

公事根源云津杖とは持統天皇二年二月卯杖

より是をなす由日幸紀小あり又仁壽二年二月卯杖... 精魁成さしとて是を以て悪鬼を掃ぬ心とて他物所よりとて

夫本

魚之ぬき等乃養老玉徳元元君八十代乃卯杖小付さる

後拾

神代より奉れりゆふさる杖といふおそめりる善かみや人

後人志だ

今日色々の本紙云三守... 今堂宗より卯杖とて在泉に焼るべき大修り此向く初なる本又日産乃之を修る

初申

作后苑

傳云神武天皇の御宇... 泉川今本傳を隔く合款あり長髓彦竟小討死

乃小其靈以奉侍と云

傳云今日より賣日の朝小至く二今日作後之悪鬼遊行是も小猶ほ必だ生れを

を本くい人言門... 泉川今本傳を隔く合款あり長髓彦竟小討死... 乃小其靈以奉侍と云

麦日

松尾山神系

今日搬人ちび小成人音灯を供はは灯火清らたは其家あり申り

下子

○上賀茂燈籠

檜燈籠於布衣にてカウタチの燈籠を御用ありは燈籠と稱すは細先ほろろよ小松二樹と引ゆる

二申

○春日所田植

大和國添上郡小河

武式部小條を付くくより田植乃吉仙伝は林を農民未田乃水は不辨と又市に極至子の教はねを灰極小破る

元日

玉蜀寶典云正月を燭月中一其一日を元日と云奉の時乃元日元

放不三元日と云也五雜俎云是と四時と云奉最時乃始月の始

今日より二日と云  
後十三日中つり

玉葉

庭のせふをこけりてけりる人のまのりや千世乃と云 後續

陸所院守三百

上庭のせふをこけりてけりる人のまのりや千世乃と云 仲定

四方拜

公古、根源云元正寅の時ふとと屬星と當入天地四方之儀と

指し移ひく年災とと拂ひ實祐成も新中はく美とて侍るを清涼殿

乃東階の中入細乃卯小所屏風とてせむし其中小所座三座とすけ

其あふとふれれをきく香花灯とて風をぬくはあふとて四時儀式

ありひくも級上れ付占とて四方を志けるあや迎はと門裏

弘明抄國大臣家りどの外いさか幸もふれくはすの始くも見くは

仁和五年二月寅乃別小天地四方屬星と陵を極し中宮の清の

乃清祀本乃きれく下も聖徳と見えはくは皇極天皇兩儀乃始

とて南側乃河上乃有るくは方と極し後ひるれ雨又日すて降るは

あり日幸紀本の書く極るをきりくとてあふとて人其上乃

星乃書く災難との我く極天地瑞祥志とて書にんくつり

江流身之主殿寮所湯を供し鶏鳴小掃於寮所壯長木派清涼殿の志を

小はは色先無葉藤を敷其上は長蓮をくは其く小所屏風八帖を立所座を

三所小級く 中殿 皇上北向小所屏風の志を 七海若斗 を祿所次く再拜次小

小向小天地拜次は西北ふ池と再拜次く東向再拜南向再拜西向再拜北

向再拜次小南を小級く山陵小向 每陵兩 度再拜 度畢所展風を用と還所

本中の更命命 十と極るは乃星乃とてあふとてのう小光のをぬきはすあ

齒固

公支根源云至上皇の所座小出所ありく生氣乃色は漸夜と

尋常の清孝夜のよふと称せらるる人々を驚かす事と云ふは古くより

に清水の清厨子前より清基二女と成る内膳右青標門より清基園具

を供せり氏俗元朝の衣服又も類考よりお遠業に向ひ

清菜と供を解死等と云ふは古風よりせしむる事公更根源云是元三の多る清殿後醍醐天皇

仍く至上晝の清厨子出御より清子とて少女の未嫁せらるるを以て是

成用らまわし屠蘇と小見より飲せり云本文ある其為小少女と撰先飲ししりわたりは菓子鬼回

先飲ししりわたりは菓子鬼回鬼回と白澤を圓くす

そしれ几帳乃りよりわたりは女官典藥成りて清菜と撰中興

は菜乃候或と五十二代の後醍醐天皇弘仁年中母始りて一人と飲ら

一家邪あり一家は是と飲は一里小福ありと云功徳なり六年乃清菜と

年毎小宮ありては清菜よりえはるる事ありと云

年毎小宮ありと云はるる事ありと云

氏家本を今於屠蘇酒を飲む先菜成紅梅乃三角本傳より後醍醐天皇御代の中  
の法飲せし廣龍云元日屠蘇酒を飲ば瘋言狂言屠蘇酒を屠蘇と撰りて  
人魂を獲りては廣龍云元日屠蘇酒を飲ば瘋言狂言屠蘇酒を屠蘇と撰りて  
又三寸と測むる酒を飲ば  
邪氣人の皮膚を去る事三寸と云

朝賀 公更根源云是と朝拜もやあり夜の時又天皇大極殿より喜

かりては母終ふあり群臣皆裸と云へては清厨子清厨子の候式よりト

奏賀奏瑞とて去年れりては赤瑞とも有りて國よりせむを

祀して今日奏せらるる

雲乃り小宮ありては清菜よりえはるる事ありと云

小朝拜 公更根源云此更と只此下元日とて赤梅天皇御代より

由り信より公更とては清菜よりえはるる事ありと云

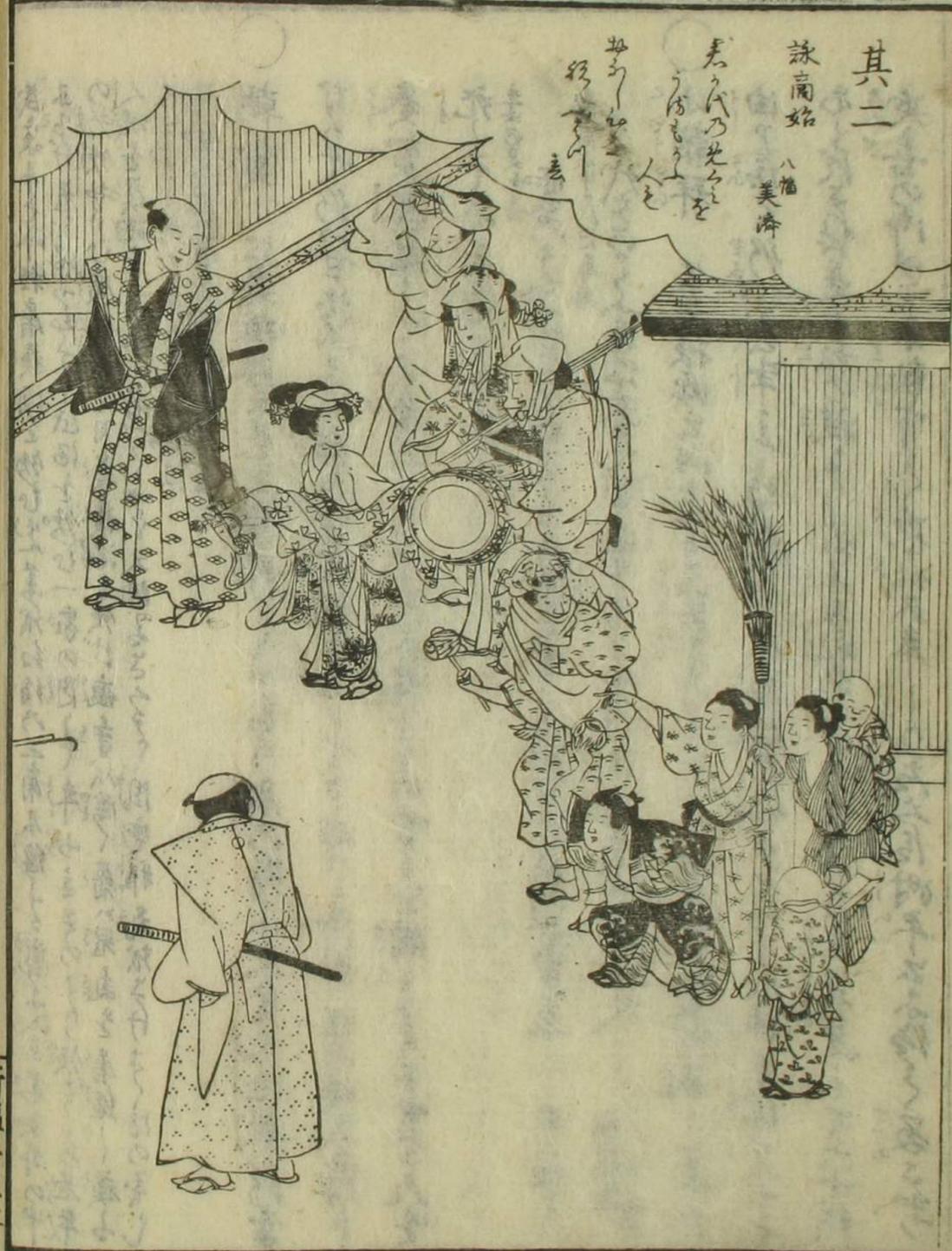
あはれは是れ私に禮する君子小福ありと云文あり不宣更して六十六代

延喜の清厨子勅育と延喜元年より左大臣時平云不修と云

年中の夏令  
新中納言  
徳秀

新中納言  
徳秀

後醍醐天皇  
御代



終ひしより柳柳拜と百官悉くおまをせしども小柳拜と只殿上斗  
かりぬ小私ある事ゆりてをきき終ひしと然も居下元正の日君威  
勢一と居更をきりし事終ひしは十九年又りしと終ひし事  
中興 關白大臣以下さうらねし事終ひしは清涼殿の東庭に位  
六位は玉子で神をほし舞踏する成層一上りして作らる幸小  
てをあげき下りて人々祝儀の中先皇名門の糸弓場後ふははら  
こ上着の人衆人頭をそのと妻宮を其後之御門と出陣さうて小柳拜の儀  
式はゆりて柳拜と罷さるゆりし事終ひしは小柳拜の儀ありし事終ひしは  
仍さる幸ありし事終ひしは 奉陪と持女初云再舞一と物と重立左右  
左右右左分と一と小柳再拜さう  
内大臣  
元日宴會 日本紀云持統天皇元年正月戊寅稱庚辰公卿と内裏宴會と  
公宴根津云元日の節云小柳拜とゆりし事終ひしは内大臣陣の序ありし事

風雅

九

後成

幸次終一上小 威源抄云宣中の直一向小大臣是と統御さぬ小  
一の上と云關白大臣の對右大臣一の上は終ひし事 ありし事終ひしは  
大臣と内大臣は中興後幸とゆりし事終ひしは 中興  
内大臣南殿小渡  
上りし事終ひしは 中興  
内大臣南殿小渡  
是より上りし事終ひしは 中興  
内大臣南殿小渡  
今乃代も便宜の事は極の極をうりし事終ひしは 中興  
内大臣南殿小渡  
大幸とて家々此は信を裏たりし事終ひしは 中興  
内大臣南殿小渡  
下殿して是と信と内殿を信と其後信と服乃所信を信と大信は信  
の事と其の事ありし事終ひしは 中興  
内大臣南殿小渡  
に次身云天自南殿小渡清涼殿中の侍子と名通は終ひしは 中興  
内大臣南殿小渡  
の元子と名通は終ひしは 中興  
内大臣南殿小渡  
右兵衛建礼 内大臣舎人を右 中興  
内大臣南殿小渡  
門を穿く 内大臣舎人曰善小柳拜は内大臣宣二丈達是小柳云

唯社に左廻して出立王卿以下列位各標立... 侍群臣再拜... 御第一盤以供... 中應之三節乃御酒を供... 奏と... 立楽健殿寮符の韓檀を立内祀宣命... 御事... 十月朔吉... 御と... 玉奉

本中絶云  
定家

六百五拾合

今日皇子乃の世のありは長遠は... 諸司奏 公更根源云法同奏... 七曜の清曆水攝腹赤の奏... 七曜清曆と官人陰陽寮... 腹赤奏と公更根源云腹赤の... 命か... 十五日... 腹赤... 年中... 今日皇子乃の世のありは長遠は...

六百五拾合

今日皇子乃の世のありは長遠は... 諸司奏 公更根源云法同奏... 七曜の清曆水攝腹赤の奏... 七曜清曆と官人陰陽寮... 腹赤奏と公更根源云腹赤の... 命か... 十五日... 腹赤... 年中... 今日皇子乃の世のありは長遠は...

六百五拾合

今日皇子乃の世のありは長遠は... 諸司奏 公更根源云法同奏... 七曜の清曆水攝腹赤の奏... 七曜清曆と官人陰陽寮... 腹赤奏と公更根源云腹赤の... 命か... 十五日... 腹赤... 年中... 今日皇子乃の世のありは長遠は...

六百五拾合

今日皇子乃の世のありは長遠は... 諸司奏 公更根源云法同奏... 七曜の清曆水攝腹赤の奏... 七曜清曆と官人陰陽寮... 腹赤奏と公更根源云腹赤の... 命か... 十五日... 腹赤... 年中... 今日皇子乃の世のありは長遠は...

六百五拾合

今日皇子乃の世のありは長遠は... 諸司奏 公更根源云法同奏... 七曜の清曆水攝腹赤の奏... 七曜清曆と官人陰陽寮... 腹赤奏と公更根源云腹赤の... 命か... 十五日... 腹赤... 年中... 今日皇子乃の世のありは長遠は...

六百五拾合

今日皇子乃の世のありは長遠は... 諸司奏 公更根源云法同奏... 七曜の清曆水攝腹赤の奏... 七曜清曆と官人陰陽寮... 腹赤奏と公更根源云腹赤の... 命か... 十五日... 腹赤... 年中... 今日皇子乃の世のありは長遠は...

六百五拾合

今日皇子乃の世のありは長遠は... 諸司奏 公更根源云法同奏... 七曜の清曆水攝腹赤の奏... 七曜清曆と官人陰陽寮... 腹赤奏と公更根源云腹赤の... 命か... 十五日... 腹赤... 年中... 今日皇子乃の世のありは長遠は...

六百五拾合

今日皇子乃の世のありは長遠は... 諸司奏 公更根源云法同奏... 七曜の清曆水攝腹赤の奏... 七曜清曆と官人陰陽寮... 腹赤奏と公更根源云腹赤の... 命か... 十五日... 腹赤... 年中... 今日皇子乃の世のありは長遠は...

六百五拾合

今日皇子乃の世のありは長遠は... 諸司奏 公更根源云法同奏... 七曜の清曆水攝腹赤の奏... 七曜清曆と官人陰陽寮... 腹赤奏と公更根源云腹赤の... 命か... 十五日... 腹赤... 年中... 今日皇子乃の世のありは長遠は...

六百五拾合

今日皇子乃の世のありは長遠は... 諸司奏 公更根源云法同奏... 七曜の清曆水攝腹赤の奏... 七曜清曆と官人陰陽寮... 腹赤奏と公更根源云腹赤の... 命か... 十五日... 腹赤... 年中... 今日皇子乃の世のありは長遠は...

六百五拾合

今日皇子乃の世のありは長遠は... 諸司奏 公更根源云法同奏... 七曜の清曆水攝腹赤の奏... 七曜清曆と官人陰陽寮... 腹赤奏と公更根源云腹赤の... 命か... 十五日... 腹赤... 年中... 今日皇子乃の世のありは長遠は...

六百五拾合

今日皇子乃の世のありは長遠は... 諸司奏 公更根源云法同奏... 七曜の清曆水攝腹赤の奏... 七曜清曆と官人陰陽寮... 腹赤奏と公更根源云腹赤の... 命か... 十五日... 腹赤... 年中... 今日皇子乃の世のありは長遠は...

祇園前掛神事 元日寅刻 執行拜殿本筋神事あり

社務六月... 定家

其式毎日子時祇園社神おれ灯燭乃非くく火を滅し暗中に事徳の男女口を放り  
他人乃假面を付りて假令其声を其人を刻りて之もむくこ徳を奉け帳に記し  
一時の真く互小放去りて去勝は其家中万利運ありとて其徳を奉け帳に記し  
是後邪魂却け心陽を助ふ意より出る徳を奉け帳に記し  
大松明と立て社同本廻りて南を居り入札の徳を奉け帳に記し  
是る半少ありて編修修法ありは附徳のありは探徳の内小札掛の本とたなり  
是の度各六色是十二月小書は是を印札とて是小火を付く徳を奉け帳に記し  
向ふとれと丹波玉本年五穀熟ん東の方小向一時と進は國五穀熟んは徳乃  
むふきをとりて東國の徳を奉け帳に記し  
右の地下小振るは時社同部小井水取酒を刺掛の史を奉け帳に記し  
是新年水取史を奉け帳に記し  
其の美を奉け帳に記し  
樹金の上は金粉を奉け帳に記し  
錦天神用帳寺町瑞光 稲荷社神社室町柳系 貴布祿社やみ

其外社神供

鞍馬寺牛王加持

今日奉養物あり牛王加持あり其札金徳乃所押はれを三津のふちあり  
信人已名を記し寄あり初寅の日本とて其札金徳乃上其ふり  
の者よれ札金あり其面山乃寄あり其の徳勝なりとて其札金徳乃  
三井寺の社慶宗後寺乃本記し印文小紫紙印と勝り何是の所り  
其をとるや

天龍寺慈濟院辨財天女札

比叡山東塔西塔修心會

其修心會希牛王加持

東寺大昨堂用帳其修心會

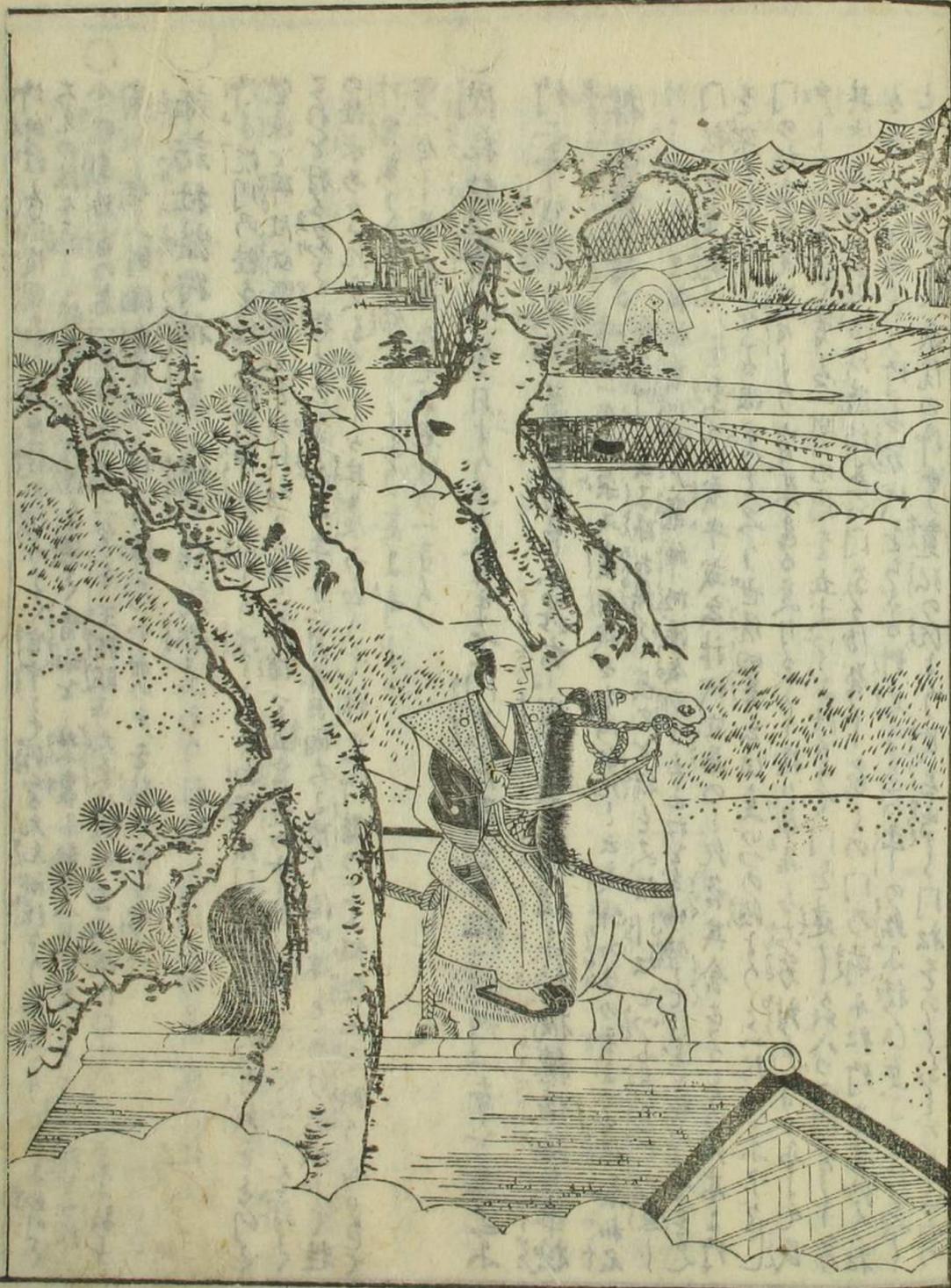
天王寺法事

六時堂重盃祝儀

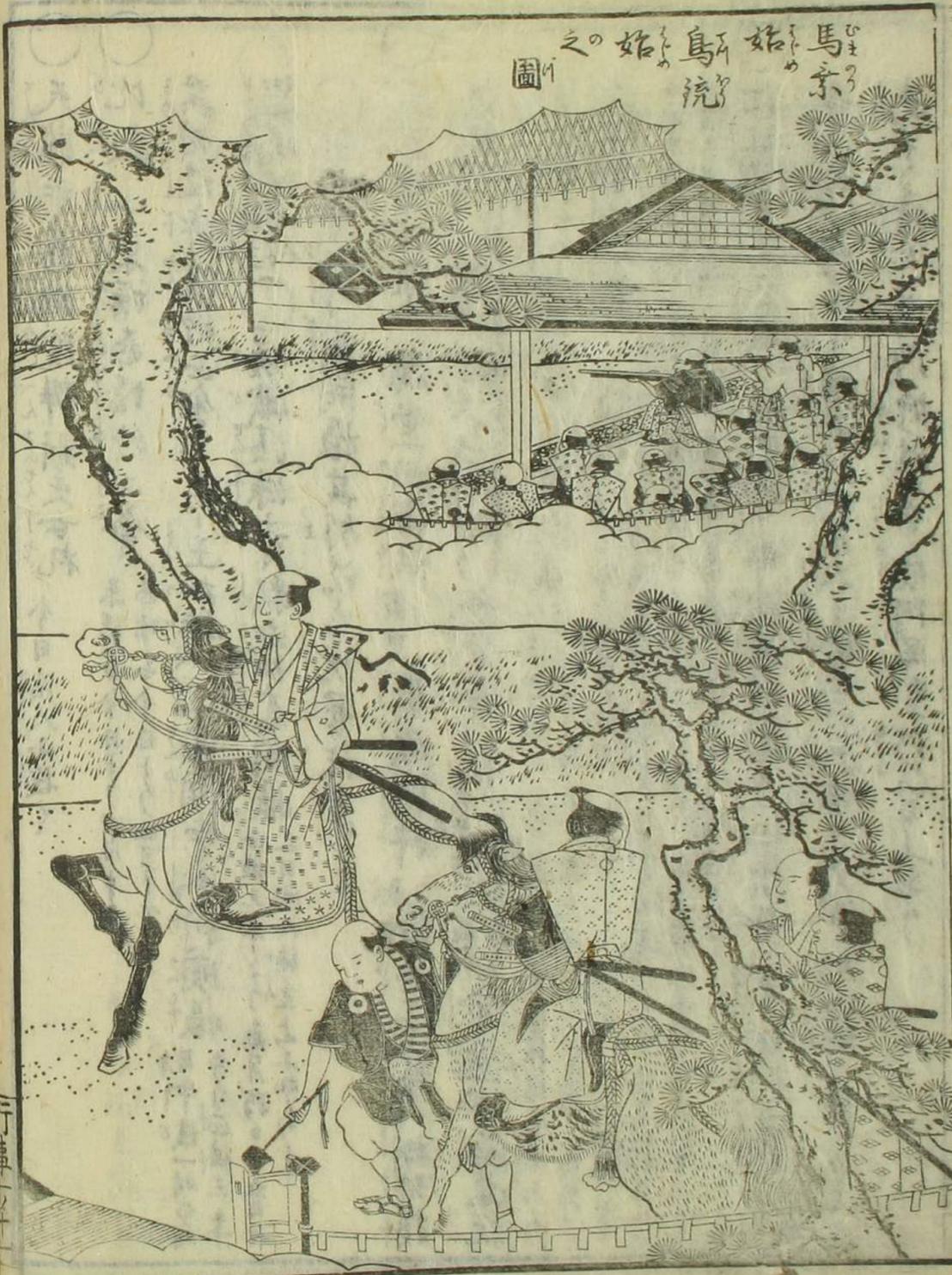
六時堂修心會

秋篠寺大元法

今日十日より十四日までの法用 初夜守持大懺悔 後夜守持三十  
十日の夜牛王と神の枝小付く清書の内塔より出る徳を奉け帳に記し  
進供 今日三時膳の祝儀立書供あり 金堂舍利講 年列五段式 食堂万石米祝  
西列文也とて 六時堂修心會の奉出は乃人賜徳は乃あり  
けり始とて 六時堂重盃祝儀 門取とて奉りて樂入双調の音取を奉りて酒味  
六時堂修心會 今日十日より十四日までの法用 初夜守持大懺悔 後夜守持三十  
十日の夜牛王と神の枝小付く清書の内塔より出る徳を奉け帳に記し  
秋篠寺大元法 和列下郡秋篠村小あり小栗栖の常院阿闍梨當  
寺に花を奉りて曉井の内本大元昭王乃新徳うつく作の枝小移せり  
まより後七日乃清修は常院阿闍梨のひなり



馬の始  
之始  
図



丁  
夕

作位と法復園家又教豊饒の神... 今日より七日... 今曉南の者一宗院の坊官二条寺主... 家々一則酒舎...

諏訪社特神夜 信列諏訪郡小あり社傳三月酉の日の条下に記

門松飾葉 今日より十五日まで門松左右小松一様竹一本と多上小

竹二本成様又飾葉を付是小昆布炭椏蜜柑梅子抽摘徳儀海老串枕

櫛長と付の櫛長一名齒菜又裏向或を修む... 門松と並葉戸を築く... 門の松を更へ...

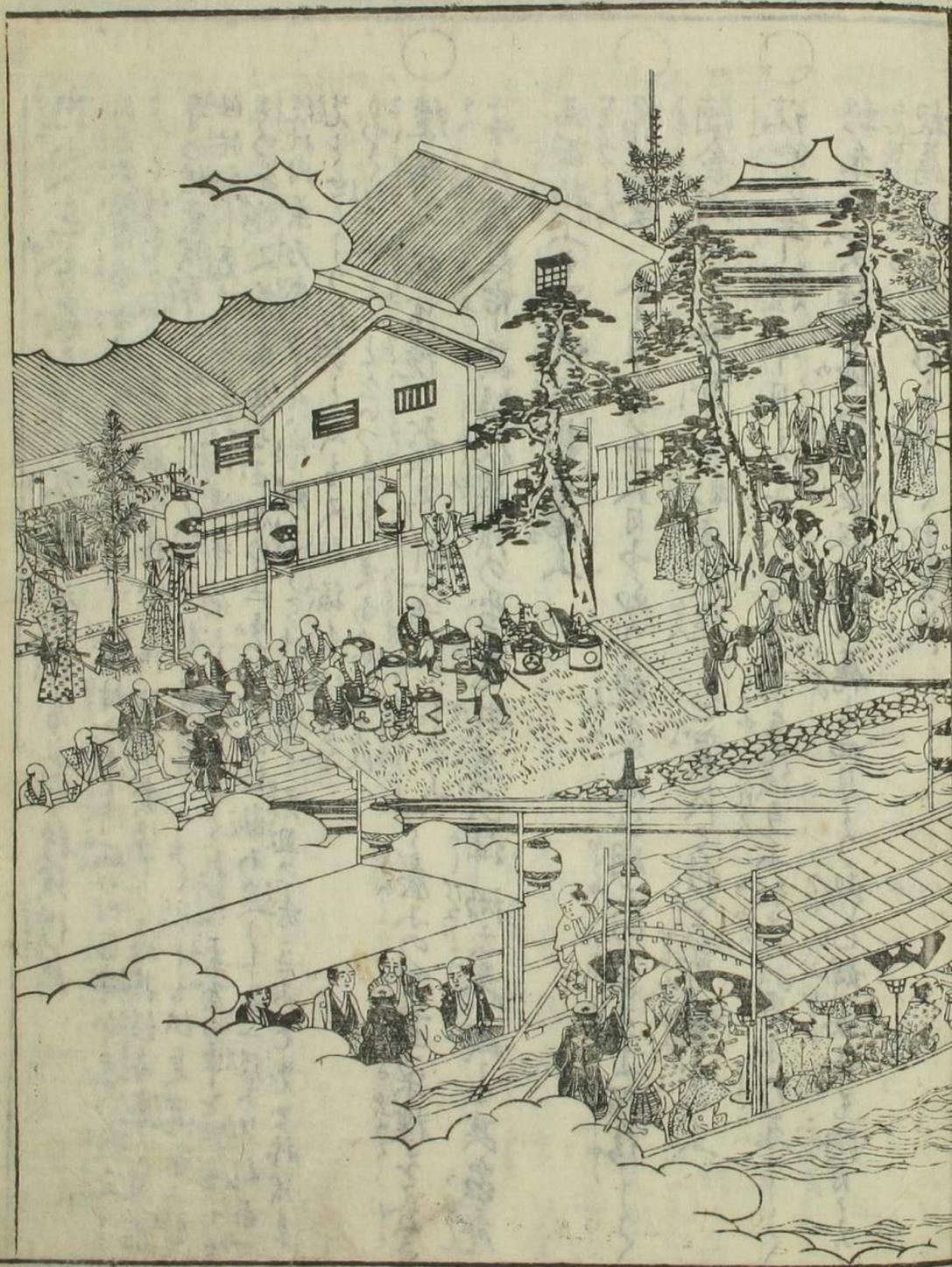
ひりい禁裏院中布小振... 平坐小不... 神とあり...

蓮葉盤 新年家々く... 三海老製斗昆布... 盛衰客来...

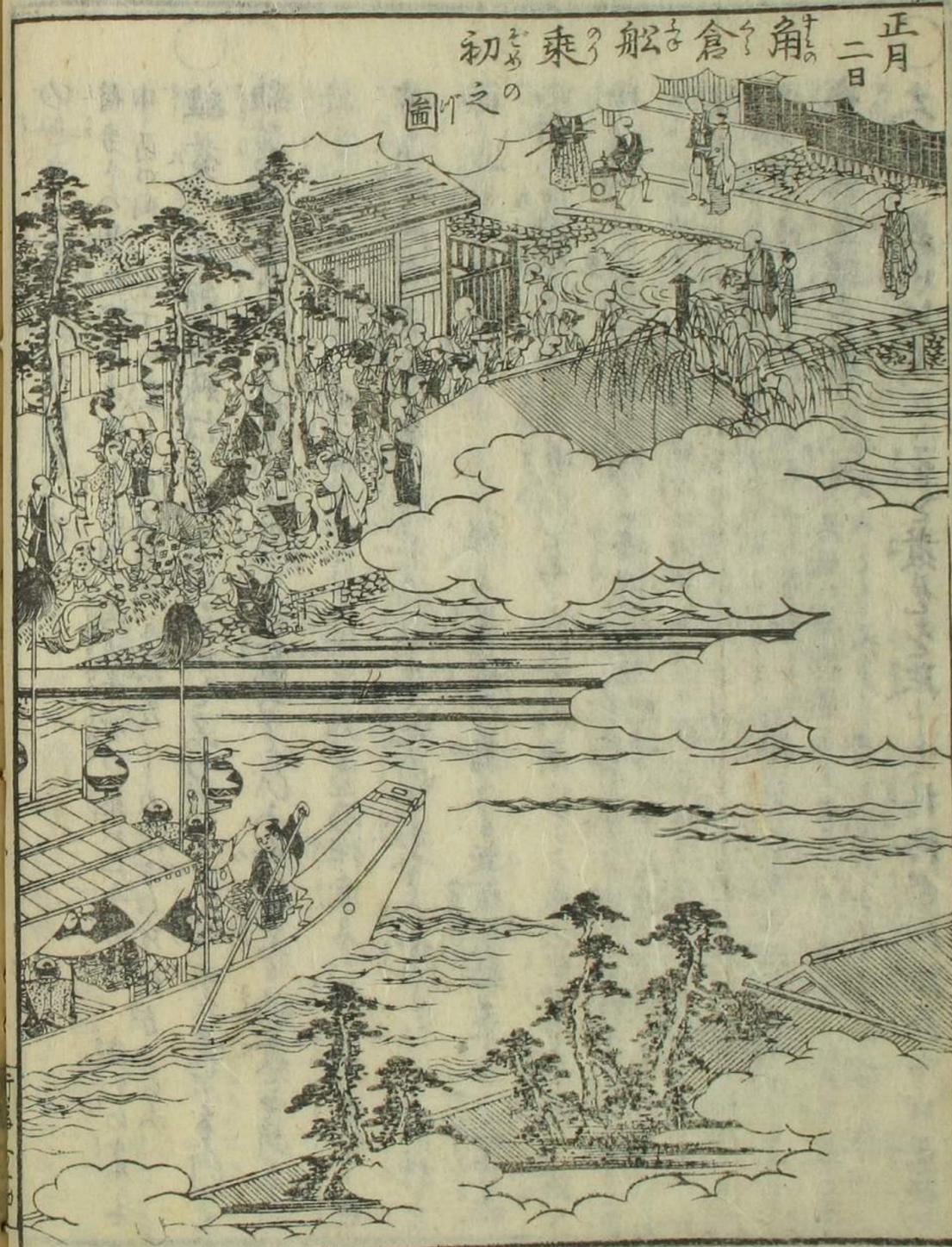
蹄く列子日勸海東小あり一... 花堂皆滋味あり...

其飾中の果... 蓮葉盤... 花堂皆滋味あり...





正月二日  
角倉船乗初  
之の圖



肉小入是合家... 又賀客... 又賀客...

浴衣六波羅密寺の縁起... 浴衣六波羅密寺の縁起云人皇六十二代村上帝神臨の時...

鏡餅 鏡餅鏡のおふあ... 一重... 鏡餅鏡のおふあ... 一重...

節食 今日より十六日... 親家及び朋友の事... 節食今日より十六日... 親家及び朋友の事...

酒食法... 今日より十六日... 親家及び朋友の事... 酒食法... 今日より十六日... 親家及び朋友の事...

徳家年禮 今日より十六日... 良縁互ふ... 徳家年禮 今日より十六日... 良縁互ふ...

親属... 今日より十六日... 親属... 今日より十六日...

雅事

今日より正月... 小本俵の馬... 雅事今日より正月... 小本俵の馬...

門々小あり... 又大馬... 門々小あり... 又大馬...

あり... 又白狐... あり... 又白狐...

右維の... 其好徳助... 右維の... 其好徳助...

面と被... 女の名... 面と被... 女の名...

今... 野大徳寺... 今... 野大徳寺...

南... 市中... 南... 市中...

白... 天を... 白... 天を...

頃... 此の... 頃... 此の...

中... 世系... 中... 世系...

新... 了... 新... 了...

二日

朝觀行幸

公事根源云是天子幸の始上皇太后

此宮より幸あり幸あり嵯峨天皇大同元年八月朝觀の儀ハ

御吉書始

拜礼

今日攝關家赤内則内殿差遣の上小松

さ赤正の公卿吉持門外物とこれと違ふ其家此徳去史書傳を

愛宕寺牛王加持

治承六波羅の西にあり

其武台赤門若弓矢那の弦指寄及小集會し南小列所して各宴飲と  
さ上小赤門若弓矢那の弦指寄及小集會し南小列所して各宴飲と  
放木の名はくもり其終る者幸堂小登り半玉杖とりて其書基  
強をとりては懸杖つと書敷とら其同小  
寺信牛王を祀と是皆惡魔を禊し習らり

角倉船系始

系河系河二系の南小あり

當家と依く本の支族世に列小傳して吾國と号と五代の徳主

三長者の其一より徳主より五代の孫より以豊るるあり

五七と云付工役を嘗と慶長九年嵯峨之井川の上丹保津邑小あり

舟を通じ日十二年無と後元禄十一年舟を岩瀬より甲府小郵じめ

皆氏の利と云せしむ日十二年大佛及建雲の湖大石巨材運送小号と

向配徐平坦ありあり能く小流を湛く舟流す小交小松と村小不日して

より及監渡材名薪炭等人力と号せりして系河小通とる

予以雙性水理小達一柳き通る所新舟終り以て教百卒の今ふあつて  
人皆其利は活も更が碑虎山と慈閣あり碑終る林道春拵と又近  
奉甲別殿は小雙が碑石公建と其徳に報んて云

其式言願川筋南倉家の前あり入はは毎武艘を舟一艘と尚も毎  
一艘は舟前舟あり寅の刻尚も及は老臣船の士守ありて入は  
と七夜半僧白るは附船中に終る船後の酒宴あり又船及び舟舟を  
留ふありて後舟の載ふ船の下の船死を舟中へすれ又船は一擧ぐ  
沢ゆを橋中をれば船の悲形とよむと海上舟毎のあが終る  
るを求む者群をふれ又登船あり終て大毎日より七日の終る  
まや火と地より焼く名物と長老火  
とらふは二長老の述る風たりとせ

厨下 洛東知恩院あり

其式今教現住大僧正厨下より出らる是と厨下より其  
と掲げ其前たたふ洞灯臺を建僧徳たの方ふ坐し僧僕右の方ふ坐し  
温純法衣を其傍傍心ふ坐成りつくは成む僧徳より僧僕も一人毎  
俗と載と傍傍上下混雜して宴社をぬれ近年酒を禁せし  
育馬入湯始 撰津玉有馬温泉寺も終る開基は基菩薩中興仁  
西上人の西傍と雲ふのせ山中の寺僧坊中れは終る一僧室小至て玄  
あり尚地の温泉温和ありて血脈を潤下焦成暖光氣とめづり酒冷

城除く小効あり日本紀之舒明天皇撰津國有馬の温泉小幸はと云  
其後聖武帝此時仍舊昆陽池の傍ありて乞食病若く遇ふ乞児の  
曰象忍身愈瘡と生れ育る此山間本温泉あり入浴ふうめ終ると仍  
夏憐く病若く負て育る乞児云瘡瘍小患生りて瘡幸堪  
びて終る我膿血を吸貴を取去終る人やせをよは終る大悲心と瘡  
一やがて瘡まが瘡瘍ふは成膿血を織る附ふ乞児忽ち金色の佛侍  
やまるとは溜溜世界の教主薬師佛ありて東方に飛去り修行基  
感歎して如法經を書写して泉庵小埋と薬師佛と彫刻して一寺と管  
ら終る安んじ其後素性元年洪水ありて山崩る温泉漸減を後小  
大和國吉野高原寺の僧仁通上人然聖菩提の靈告ふり終るは終る  
意址試問と泉源と後寺院及び十二坊を又建し守湯と是く附小  
建久二年二月より是より温泉意附小復して絶る更あり其後豊を園  
の主人封田許を寄附せし内とせ

按此山は聖武帝の居た所也  
自今人の膿を吸ふ小阿闍梨と云ふは此の瘡也



馬の二匹混合して一人附合して  
 入湯の法客性本の諸人小島を草毛馬重藤の弓白羽の夫を携ふ希は鷹匠  
 苗山は入ふ草毛馬重藤の弓白羽の夫を携ふ希は鷹匠  
 苗山の姓を果て小田圃を以て山井英女と現して藤山遊ふ所中を遊んで夫  
 と相合らけり小島を携ふ馬より其時乗る馬と草毛馬を携ふ馬の重藤夫の  
 伯祖より現る山井の  
 忌のふくまは禁れり

- 今日公武の両家及び地丁の良職者等と試む是と書初より公家の  
 其業はらゆる武家の弓馬射術法炮の教者これ瓜分試む地丁の良職  
 元一藝ある者悉く其業と始免農家の精始工商と其家業以始む  
 ○ 高橋大隅の両家摩那切始兼小入と執之  
 ○ 連袂佛塔小二つおと和し度白服才三丘成作者二人して編み又度白  
 と摺るのしあしあし小石  
 ○ 農工者此家々旧年除夜は倉庫と須し今物始り用くと藤岡云  
 今日浴室を用と浴するは湯後始り  
 ○ 船系始り 江戸大坂法玉浦く渡本あり大坂色あしく小松竹  
 江連を飾り船霊を乗り陸海神石焼の標くの佐物と秋ト水  
 榊取も善や小標ひ十段より小物漕舟其後酒宴とらん

三日

- 浄土を供千瘡膏を今洞の小忌小盛中盤小居修之 累主上取之  
 右手の無名指を以左の掌と塗りお終るとき  
 今明の同禁裏浄土の農民  
 年頭乃後髪を束よつ終り解酒を濁し  
 ○ 小野裏白連袂 松梅院にて勤之 関之今相お仕の男女おどる湯そ  
 東寺大陣堂牛王 戒別 世俗修之 小牛王と云 小中ふ是と本持  
 されば風波の紐免衣あまのく名はくおるり  
 ○ 比叡山慈惠大陣忌 世持して元亨 元亨釋書云 教良源姓の本陣氏進は玉  
 淡舟船の人も物氏愛小海中に存して日光懐ふ入と見え 婦胎一延生十二  
 年九月二日小ける丸案の府田間小松と國老貞の源之頂ふおとく空中央に雲  
 氣の蓋のくく度とるる後叡山は上り早悟学の石成傳より永観二年

江戸

大坂

諸國

二月三日毎日源... 邪魅を降く... 丹波國何麻那志賀村にせん神社の事紀あり

○ 東蔵山大黒湯 東蔵山中 廣國院大黒天 水宿也

○ 東蔵山大黒湯 今日餅を湯ふ... 又所極湯と云ふ

○ 藤荷 糸 丹波國何麻那志賀村にせん神社の事紀あり

○ 糸神未考 其式社地水涌の... 踏む幸を... 今日社人... 行... 芝... あり

京師

○ 四月 今明日の間多く... 雨... 幸始あり... 壺の石次日長上... 下

○ 濟幸始 今明日の間多く雨幸始あり壺の石次日長上... 下

○ 濟幸始 今明日の間多く雨幸始あり壺の石次日長上... 下

京師

○ 五日 養事始 公文根... 中累 是... 養事始 公文根... 中累 是... 養事始 公文根... 中累 是...

○ 養事始 公文根... 中累 是... 養事始 公文根... 中累 是...

○ 淨新始 又本作始

○ 今日小山崎村云云 淨五多他支鳥帽子未絶成忌 禁裏院中未  
三度入夜の古忌と清新 其後亦此家又献ト又市中小少トテ其を賣不  
出置と後八杉村懐枝村両研の御代  
割のまづ懐枝と我懐枝と八杉村の御代

○ 千壽万歳

今日東の浄庭より早欽唱ハシテ猿舞あり  
歳ハ六和國窪田著尾西村より物支流り窪田支著尾をまゝ云  
左郷右郷を離トセ移ル

○ 左郷右郷を離トセ移ル

今日東の浄庭より早欽唱ハシテ猿舞あり  
歳ハ六和國窪田著尾西村より物支流り窪田支著尾をまゝ云  
左郷右郷を離トセ移ル

○ 上下浄倉領供物

浄倉領海舟の浄倉領主入氏 浄倉領の西家より 浄倉領一高乾青二種法  
大根を禁裏院沖小舟西氏持衣張忌ト先浄厨子御へ献ト二高女  
念主より奏者御に出公卿間小舟中浄物御願系法長長格御  
代より物支浄酒を揚ト浄倉領主入氏に浄倉領一高乾青二種法  
と裁縫の女中と浄物御願系法長長格御願系法長長格御願系  
浄感の御書教通令本願系法長長格御願系法長長格御願系  
の事と御書教通令本願系法長長格御願系法長長格御願系  
友浄倉領より御代  
浄倉領の御代又これよりト

○ 稻荷注繩張

山城國紀伊郡伏見より 當社の神和綱年中  
上三峯に垂跡延喜八年 藤原朝臣時平之三箇の社を修造せし今の  
地ニ社と移を更ト永亨十年ト云 神傳二月初年系ト云

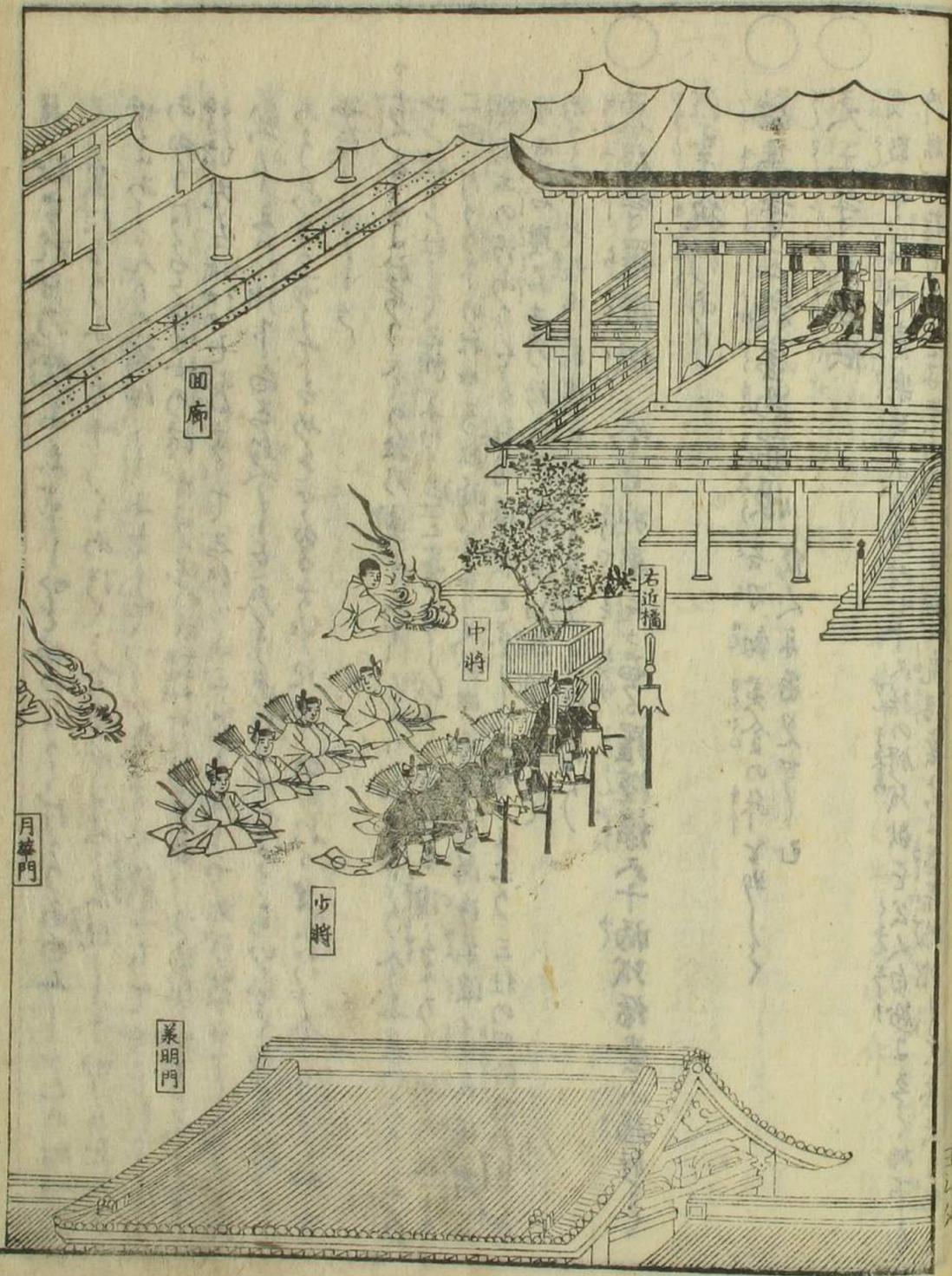
枕竹紙云いあり小石の毎うてまうす御本中乃四社の御とわつあく若れ  
と心移入ト云の御とわつあく若れと心移入ト云の御とわつあく若れ  
と心移入ト云の御とわつあく若れと心移入ト云の御とわつあく若れ



馬家  
 御風簾舎  
 日華門之敬園  
 床子座  
 両局座



正月七日  
 白馬  
 御節會  
 廊下



月むかれ日乃曉ふまを...  
ちる案にありふりや...  
母よあゝんりの坂...  
あめりけらるる女...  
ひらひらと下白...  
あうあうあうあう...  
母存...

○ 東福寺羅漢供 今日北殿司...  
○ 法華執りあり  
○ 鞍馬寺三種宝物異帳  
○ 天王寺太子供

○ 高基寺湖月尼公忌  
○ 芝明神系  
○ 人日 荆楚歲時記云...  
○ 四日狐平...  
○ 五日と牛や...  
○ 六日と馬と...  
○ 七日と人...  
○ 八日穀とす其日晴...

京師

六日

江戸

七日

京師

八日

○ 高基寺湖月尼公忌  
○ 芝明神系  
○ 人日 荆楚歲時記云...  
○ 四日狐平...  
○ 五日と牛や...  
○ 六日と馬と...  
○ 七日と人...  
○ 八日穀とす其日晴...

天坂

○

○ 高基寺湖月尼公忌  
○ 芝明神系  
○ 人日 荆楚歲時記云...  
○ 四日狐平...  
○ 五日と牛や...  
○ 六日と馬と...  
○ 七日と人...  
○ 八日穀とす其日晴...



川崎の所は別左右馬寮所監の文加署の幸あり...  
以て看督...  
の支あり...  
拜礼有り...  
凡そ...  
先...  
自馬陣...  
次...  
件...  
万...  
夫本...  
車中行...  
清水寺半王...  
薩服士在地...  
清水寺と号し

延法寶龜九年...  
側...  
吾...  
又...  
東...  
長...  
唐...  
資...  
と...  
作...  
地...  
塚...  
二年...  
平...  
勅...  
清水寺と号し

尚寺始大和園小あり今は前々桓武帝平安味遷都の後寺は極上極上  
所あり興院と延法房室の秘遷地の後其所を廟堂とて後改め興院と  
今日牛王の式元日より今日小角寺傍已別館法ありて柳の本とて之を  
中法打是後と遷ひ陽を遷はるの事ありとせざる已別館法ありて  
押多ふし後人駭し

箕面富

攝津守其為郡箕面山より流安寺古釋院と号

本寺辨別天女役以若の作日辛四箇所辨別天の其一なり

遠く雲中入る山より止系よりとて辨別天の祠を建てる功徳を  
其式元日より今日小角寺傍已別館法ありて柳の本とて之を  
中法打是後と遷ひ陽を遷はるの事ありとせざる已別館法ありて  
押多ふし後人駭し

其式元日より今日小角寺傍已別館法ありて柳の本とて之を  
中法打是後と遷ひ陽を遷はるの事ありとせざる已別館法ありて  
押多ふし後人駭し

其式元日より今日小角寺傍已別館法ありて柳の本とて之を  
中法打是後と遷ひ陽を遷はるの事ありとせざる已別館法ありて  
押多ふし後人駭し

勝尾寺福富

日玉傳下郡小あり應頂山菩提院と号以富山の  
其式元日より今日小角寺傍已別館法ありて柳の本とて之を  
中法打是後と遷ひ陽を遷はるの事ありとせざる已別館法ありて  
押多ふし後人駭し

住吉白馬神事

日玉 樹を竹あり樹馬宗此神を平上給宣  
社傍及び修人等出仕あり

葉插川神事

大和守若部郡勝手此神宗神受誓命  
其式元日尚社の神人氏の男女川名より葉插川とて勝手此神の神使  
とて一紀をたふし川と葉插川とて

富之圖  
其の面  
七日  
月



○ 鍵引 伊賀國伊賀郡上野村あり

今日志村の靈本に伊賀と鍵引とを唱へこれ其鍵引と云ふなり  
田畑(新)にまゝなるを云ふなり

故事

八日

○ 女叙位 今あり 公夏根源公是女房の位階を叙せしむるなり

通年小納言其儀大方に叙位下日ト大納言小納言切杭のり文ら  
浮動文らト云物あり又典侍掌侍令婦花人東屋と云々の若狭叙  
とるをあり切杭に五位の爵を中二位二位に升りしる人あり是は  
叙せしむる也中身を東屋と云ふ内侍司の被官あり物として其時  
姫松とてけり此馬小納言竹書も是也是と云ふ子と云ふなり  
トヤ二子と云ふ天子の守りて有る一由緒も傳るなりや年毎に文  
成物して必五位のりるを給ふなり是る昔より日一名多敷相傳  
して紀朝臣季明と名するなり此は此の事あり社々  
此十年の叙職をり是母の三十年のる公より母はと  
より母の旁二十年と我十とと合せしむるなり  
年中行事前合  
其の事ありはしるなり七と云ふなりと云ふなり

為邦

○ 女王様 今あり 江戸才云所司府と殿の座小後布帷二宮城安福殿の前より

と版位の南より又殿上の装束と侍を以て天皇の御宸殿小御を因侍女友と率て座  
り就奉司女友と云く月無より是は女王の帷下の所小就次官人を授け  
希庭の所小就次一人薄と執り唱へ其親皇の及に一組の風俗をとりて  
標准して座中の座に就て定るに薄と執り名は喚女王御稱して進  
で禰と受退出に其禰法人別二匹綿六屯と云々

○ 御拜會 日本紀云天武天皇九年始々令光明經を定中し況むる

公夏根源公是と大極殿中八日より十日まで七日の間宸膳王經成傳  
せしむる朝家と稱するに經をりも國家を維持する功徳ありと云ふなり  
荒玉丸年の始々先傳せしむるなり

代を新ふるは始々はるるに思ふに其の事ありと云ふなり  
白川卷七百番  
年中行事前合  
其の事ありはしるなり  
真言院淨修法 續日本紀云永和元年觀空海奏狀云伏乞自今

陳朝紀

以後一依經法講經七日之時將擇解法僧二七人沙彌二七人別莊嚴一室陣列講尊像莫布供身持誦真言然則顯密二趣契如來之本意現當福聚獲諸尊之悲願云々勅して請ふらるる修之永く恒例とせよ

帝王編年記云養和元年始く真言院と宮中に置鎮護國家五教を鏡のり毎年年一七日を限り修法せしむる公更根源云々一令別界されば毎年年胎花界年々々修せしむる

其式今承りて東寺の長者宗演等七人の修法僧を撰り職事修しあり及上り今胎花界の曼陀羅羅舞五大尊十二支の畫像と揚ぐ胎花兩部兩種中其年のかき此等又胎花抄を五長若檀とよび修せしむる修法の外又空一經法儀牛王杖とよびく處と敷く新天子神代ゆ大元法

公更根源云治教省して七箇月を以りて苑人内苑寮の官人を以て神衣法壇所并たる神衣等よへく緋の縵とせしむす御前より修し苑人封を付て是と治教省よはらるる御前とていひ

○大元法 常時法儀入唐して極靈寺れ文勝と空也と交

○山城園 永極の法儀おん於元神の法儀修し

○祇園牛王 今院兼法備中牛王を中興國代救救と并兼と故の園供粉

○空也堂 神教出初 曰東坊門神衣法儀あり紫雲山極樂院光勝と空也

○堂と号 其式有號の御酒と敷き空也上人の御酒と敷き空也

○新築降寺市 大和國十文大寺れ一也 市あり養和の神宮と

○諸禮 昨日今日月日の同徳日と修し奉始の法比五尼法儀の古居

○禁裏 迎居内りの流し謂ふ其外極と修し法儀の神代舟三時院

○泉涌寺 西堂も亦黒衣とて之と或は修儀代りこれを修し又八時

○春内 普賢と修し

○攝別 武庫那西又あり 祭神天照を神奉盡鳥

○相殿 大已貴等奉八十神傳云神武天皇長髓養等

○天軍 矣とてさる小推根津養神教万れ矣とてさる又食とてさる

○ 食秋なる天孫天下と治の河同日汝と河なる神を推根津彦神也  
 吾の孫子今たり吾世の家事を司る是西文之神たり倍よ得る柄と  
 福を 増多柄の事ハ十月十日の事なる

十日 貴布祢社神供

洛中貴布祢社あり

今日答照を修む新魚文解魚鱗布大根海藤等あり又事社神あり  
 社家左近の一若き新魚文解魚鱗布大根海藤等あり又事社神あり  
 小清人切替と社神の初は清く  
 我宅より膳振飯菜とも考来て頭至一汁と扱け出されを  
 十日計

夷參

世借十日夷と云 振列西戎邦 介官村あり 夷和 王と云

蛭見尊

素盞鳥尊 大日靈尊 大己貴命 月讀尊

今日循人那とる浪葉の十日夷参昨の初午消是一年中法舎の甲より  
 浪葉の市中工高九小体同と 在ある格別なる故に家毎又き人たり  
 系清せんより一平初 社中 留此大能同として故に留帰者一世の夷とそ  
 作樂しなくて散集の中と押しく興志するを社に留帰す一はとも同  
 け中作らざるりて意は後々後々の社に留帰す一はとも同  
 留此大能同として故に留帰者一世の夷とそ  
 留此大能同として故に留帰者一世の夷とそ

伊予志奈

日部伊予志奈あり 鹽尾寺と云幸十一面観音

今日宣の津観音の云武あり村民者炬火を燈して群集し  
 勢子出せし 威あり 威あり 威あり 威あり 威あり  
 勢子出せし 威あり 威あり 威あり 威あり 威あり



○常陸帶神事 今あり 常陸國麻波郡鹿島神社祭神 武甕槌命

後頼抄云常陸守藤原時房神と申す乃多あり此自女のけさう人のけさうあり  
とれ小名とも布の帯に書付く神れ御前よまきり母あり此中ふまふと  
男乃名書たふとは母のけさうのけさうなりわかれ此て神宣が得さる此  
女見さると思ふ男れ名ある帯されは爲て御前よまきり母あり此中ふまふと  
かやそとて一色なりぬす人言ふのあやまるまかり  
奥後抄云常陸守てひつり此我名を書れた神れ乃と男の名をよて  
波神の御前よまきりて帯と折返す中よは深く此此神宣小娘と  
まかきりて終りけさうとてかきりひも此此とてまきりけさうとて  
わけ帯れ中よまきりふまきりけさうとてまきりけさうとてまきりけさうとて  
帯のやう小打掛とて

十一日

○縣召除目

今あり 乙支根原之縣召召外官をひひと任せ

外官と云はるの司事ゆるむかみ候あてせり此邦國の人と云はる候は  
らるれば中よにや

年中の事奇合 八偶ある君の御まじりありはれ先をよあふ名を御定まはせ

枕草子云 ちのくみはるさるぬ人の家ありいれはれをせまきりて中ありいれぬも

りしはるいれぬしは五月の除目なり御前よまきりて中ありいれぬも

出車れかろえもひりかきりて見はるまきりて中ありいれぬも

その馬曉中門にを善のせ候 御前よまきりて中ありいれぬも

御前よまきりて中ありいれぬも 御前よまきりて中ありいれぬも

御前よまきりて中ありいれぬも 御前よまきりて中ありいれぬも

御前よまきりて中ありいれぬも 御前よまきりて中ありいれぬも

御前よまきりて中ありいれぬも 御前よまきりて中ありいれぬも

御前よまきりて中ありいれぬも 御前よまきりて中ありいれぬも

仰くよりあるものゆゑにそのくはもえのちもなるまじきい  
えうくゆゑなるものゆゑにそのくはもえのちもなるまじきい  
えうくゆゑなるものゆゑにそのくはもえのちもなるまじきい  
えうくゆゑなるものゆゑにそのくはもえのちもなるまじきい

○**奏幸始** 今日伊勢西宮の奏幸始  
今日伊勢西宮の奏幸始  
今日伊勢西宮の奏幸始

○**具足鏡飾用** 正月具足鏡飾用  
正月具足鏡飾用  
正月具足鏡飾用

○**天王寺金雲子弁始** 天王寺金雲子弁始  
天王寺金雲子弁始  
天王寺金雲子弁始

○**直會祭** 尾張國中務那國府宮の神祭なり  
尾張國中務那國府宮の神祭なり  
尾張國中務那國府宮の神祭なり

○**拾遺武射神供** 其式  
拾遺武射神供  
其式

○**住吉津結禊** 住吉津結禊  
住吉津結禊  
住吉津結禊

○**十四日** 御齋會内輪義  
御齋會内輪義  
御齋會内輪義

○**男踏秋** 今日  
男踏秋  
今日

○**十四日奉献** 今日  
十四日奉献  
今日

今日までと連年の内又木の内と云々元日より  
今日までと連年の内又木の内と云々元日より  
今日までと連年の内又木の内と云々元日より

其意固あらんを流に公家此如儀國保を杖杖小株之儀御丁の門戸と  
致く則は佛十五日小豆粥の内よ入考く其後を食んた村も示彼と遊ん  
後と重なるの儀あり西國にて嘗たり嘯よ

上賀茂神柳飾

是は魚渡と云田前六の若司之

川上三村の  
小湍四村の  
中野二村の

今衆所柳飾あり神氏人吾願登を集く少は白坐江田所六人南  
向く坐し茲及吾誠不の柳氏心魚鳥吾差あり或ハ費細章魚等  
れ物其教を教へくを納む魚魚渡と云又年三儀を後垂平至  
其向くことと兼し是上九万石の神柳氏納の儀あり神柳の儀  
我善人柳を願人これ儀を主とる者これ柳を製して神柳三合の上よ  
六人の上よ柳を垂垂と池一二年中儀神氏納今日之儀を垂  
柳飾あり神氏柳あり神氏柳あり神氏柳あり神氏柳あり  
を致しそ神氏柳あり神氏柳あり神氏柳あり神氏柳あり

祇園社柳枝蘙氏社三科の板

お指紙傳抄云奉蓋島高松の五へ

下は終ん時風雨は若しみ法作小宿儀を修くも許さるる三つこの國小  
巨且蘙氏の子牙あり巨且古家考りたれども仁不仁あり蘙氏の莫一  
それども愛慈れらわりてこの神宿を中垂の版をすれは折す  
アハサの國より果夜鬼を所を垂れぬ茅北柳枝遣りて夢させ  
終ん正月小至す一村の内蘙氏イれは是形に心を免りて終り別不

陰んくは後夜流りの附あり蘙氏將來子孫と書て門楯に  
墨その形くは其獨を正くやとて  
除く此守ありて奉蓋島より起る  
今日柳飾を修く神氏柳あり神氏柳あり神氏柳あり  
其の社柳あり神氏柳あり神氏柳あり神氏柳あり

大津葉打

は川原賀郡大津葉あり

今衆所柳飾あり神氏人吾願登を集く少は白坐江田所六人南  
向く坐し茲及吾誠不の柳氏心魚鳥吾差あり或ハ費細章魚等  
れ物其教を教へくを納む魚魚渡と云又年三儀を後垂平至  
其向くことと兼し是上九万石の神柳氏納の儀あり神柳の儀  
我善人柳を願人これ儀を主とる者これ柳を製して神柳三合の上よ  
六人の上よ柳を垂垂と池一二年中儀神氏納今日之儀を垂  
柳飾あり神氏柳あり神氏柳あり神氏柳あり神氏柳あり  
を致しそ神氏柳あり神氏柳あり神氏柳あり神氏柳あり

外宮湊頭神吏

今日より十六日乃至内俣勢國度會郡山田あり

傳之後柏原帝永の夜夜流りを山田郷の八獅子頭とゆう上の在  
家より承牙小下りて所へ逆有り其形儀剛の夜神不親あり味津村  
今午頭社中島  
大社一本  
藤社山内  
今村社多勢  
坂社坂ノ

苗社

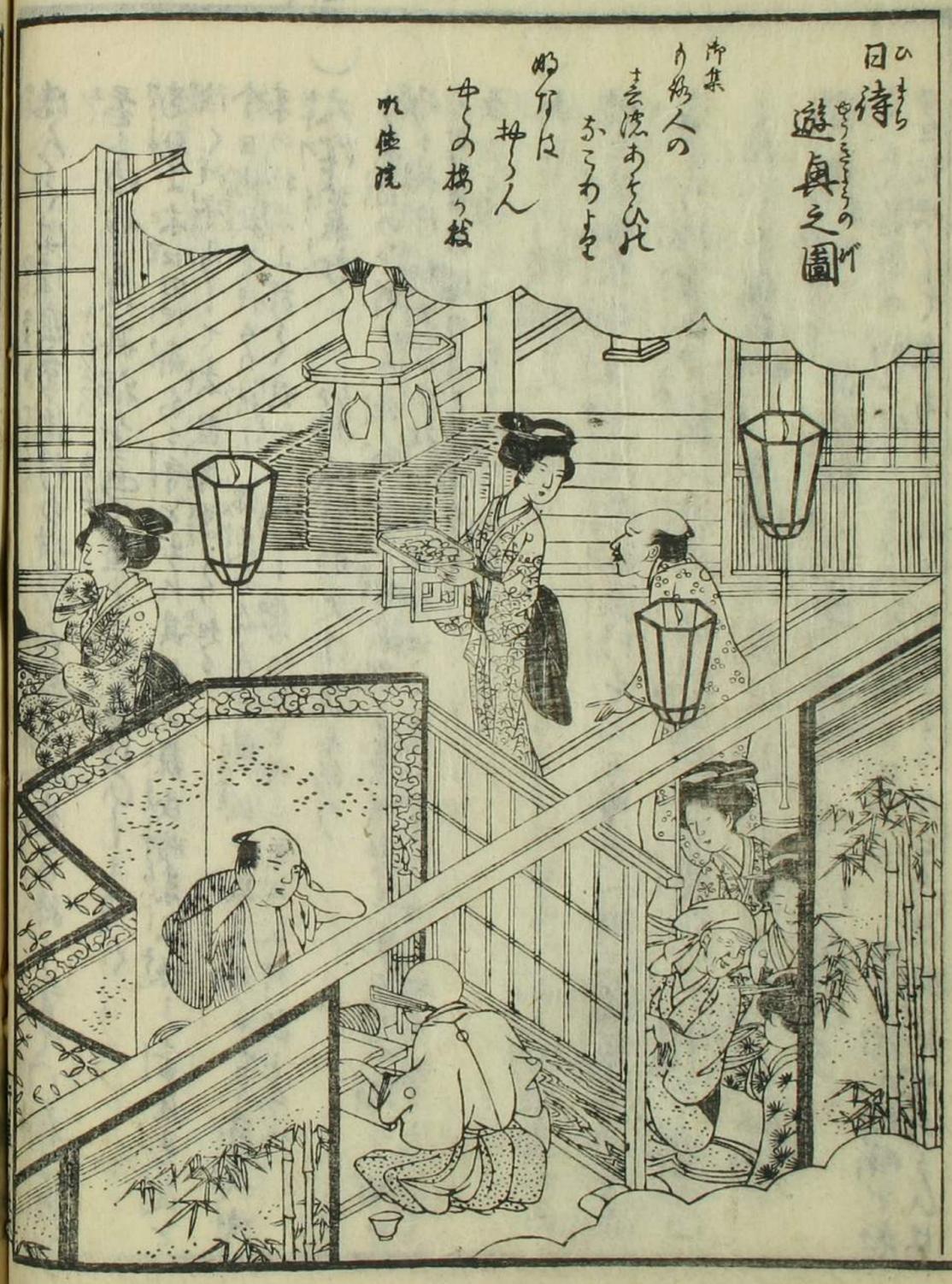
其曲社  
瀬本社  
の八社

今日八箇所の氏子所より八社の獅子頭出し是は被り松明と云  
はを致しそ神氏柳あり神氏柳あり神氏柳あり神氏柳あり





夕〜宵ふ  
 青巻  
 月〜けと  
 まのせ  
 こはらの  
 また  
 多れ崎  
 せん  
 全君

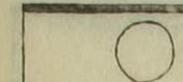


日待  
 遊真之圖  
 舟集  
 り船人の  
 まはるあをひれ  
 おこあよを  
 好介は  
 押人  
 舟の橋う枝  
 帆世院



挿てり成りたるとて今も新式に挿む度あり新式を新式に挿むとて

又新式に挿むとて今も新式に挿む度あり新式を新式に挿むとて



犯を別寒熱を痛しむ名く山臊と云竹ををりて火中著輝輝

爆竹并古書揚 神異經云西方海山の中に入あり長尺餘人を

今日新式に挿むとて今も新式に挿む度あり新式を新式に挿むとて

今日新式に挿むとて今も新式に挿む度あり新式を新式に挿むとて



焼とじ字紙忘ばあり傳し...

○所薪 今あり 公更根源云是と百官了らぐを薪をもち宮内首う  
たさめらるゆ其救をて延在式よ見くらりと

○兵部手番

○日侍 今夜右田ト於家ト於く 禁裏の日侍を修ん御極物あり

○八幡泰 山城國旗山あり 神侍八月十五日 今日より十九日あるまで  
今日三月十三日十七夜廿三夜廿七夜又氏家の主人御成徳法宗を  
御下至くも存を其同親戚朋友其家本願の難遊して主人の睡を研し

○西七條田植神豆

今来酉の夜より高家の男若くは女の小社を造り 赤ら藪とくけ而ふ  
おねを概ひたるある 盆子小豆餅と引て頭は戴く 盆子をこり戴く人を

○牧岡瑞占

河内山内郡あり 桑神 大日靈乎天津兎屋命  
経津主命 武甕槌命 尚社と神武天皇の所宇宇師長隨表と孔

○舍衛坂小親ハ神

十四日神供餅みたく又盆を取小豆餅と煮五寸許り切らす餅竹み十に  
中一末とて餅を煮たり 盆を早於其餅を神儀とて五穀成社の  
初あり是餅を煮たり 盆の餅を煮たり 盆の餅を煮たり 盆の餅を煮たり

早稲の分

四十日 川も無 赤らせそのねいこ候 あら候 数日の中より候

わげ山田の分

義彦候 ちうさん ねて候いさげいさ候

あけの中田の分

さくたる ござれ候 ひらの指 さはのちり候 おさんば

あけの畑の分

たんた はのも候 けり候 あはものち らこ

下田の分

ちうさぬ りらさひ は先 あけきいも そば あらる

下の畑の分

いさげ いさ候 さものち ちうさぬのち 赤んぼ 中さかせ すぢや

已上五十四分

○真福寺心経會

南都七太寺の其一也 寺元式万子百指の平候

初免山陰國宇治郡少聖山階陶原庄大徳冠深足公の奈坂寺にて

山階寺と号は天武天皇白鳳元年大和國高市郡麻坂に移して一階寺

と号え明天皇和銅三年去日の依小稱して法海公造是より今真福寺

と号に

其式幸徳井賀原氏日時の敷文と番寺勢門主小故は其日門主の家小於て 式法あり幸徳井領無後古南大門の左右に松林と建寺候も亦門下

○二保系

駿河國彦根郡神樂神二座三穂津媛命大已

貴命十二代景行天皇十年十一月神皇始ま

十四日より十六日小あつて近國系諸郡城をたてしり馬とまゝりてまゝに

馬とまゝりて十日日尚遊神あり大登して池と着る竹の筒は五段共

外半蓋薩菴等の種れ名と書付候とひりりて者く其神竹の筒はまゝに

○博多松懸ふ

流前園ふあり

今日博多町人あつて酒肴と及布祝儀を遊く候人彌登又遊地ふ

と出ん町人の酒肴の肴はよ下り裁符をたて其しつて二尺の杖をいり頭ふ

中と被る葉を懸をけりて縁をたてしつて酒肴の肴はまゝに

今博多はつて一層の博多はよ登りて今の高橋はぬり其博多は

今博多はつて一層の博多はよ登りて今の高橋はぬり其博多は

十六日

○踊歌節會

公更根原をたて五月十五日と月の夜を

中の男女れまよとく物つれをたてしつて年始の祝詞をけりて

舞をもちせりせりせりなり小踊寺とはやなり天武天皇二年二月小  
 大極殿小酒清なりて男女の幸ありて周教小踊寺此幸ありと見く有り  
 江次第云琴歌云 新年始迹何久仕供奉良米萬代摩提丹  
 三節の清酒を供一献國栖歌曲試奏凡 兼明門の外はたかく奏之内并奏後  
 の大布あ作て傳へてむ大布東階と  
 下已外記小舞妓出 西宮抄云に十人 後下小至折と南あり  
 作て傳へてむ 更小還く北より踊舞三廻り七之のや遮る樂家の者  
 二人 者 前仍も按書殿の南端小あて東向を妓分て風より西に進  
 按書殿の南北端小あて東より折延道と交きて南に進も更北に進く大  
 極殿作太通小一画を又左右小南より更折て内より北に進く返  
 按書殿の東庭小留東向小奇成唱退入三宮小春  
 踏守とあられをりてとて一秋曲の終ふ必重万年ありとと稱を及ふ万  
 〇夜小入る踏守の音あり二言舎每小徹夜頭光漸為書とわりの法及  
 人仕仕の邪眼を告る是其期小及て内并外并 委法及人委執陣の者  
 あり殿上より石門と作を石門大屋が文其嘉古ありあなる出る  
 事平て及舞は庭上より舞人舞舞及で人舞樂あり一合  
 〇とへく極舞と公解にあり

○ 日野 裸踊

山城國宇治郡磯碓の南あり法界寺を号し幸る薬師

如來尚寺へ傳教大伴比叡山宗春の時日聖宗勅使より其歡び小

金銅の薬師と傳へて日野家の所伝なる板別一字成建立し薬師と

安寺一法界寺を號し後兵火小罷り坊舎半宇紙滅し傳ふ阿彌陀

堂はもたす仍くは書小茶少佛と板を今の幸堂是也

今 疾は舎ありて里人幸中不集ありあり舞ふなり奇とうたひ縁と白を  
 裸とせりとも又世人乳汁をさきものあまの葉作 研み小舞の儀  
 とを舞舞しとあ 服せられ必意強あり 奇とうたひ縁と白を  
 納る佛影と謝し 則今 兼里人と府とく踊りむせ舎の終り小寺傍  
 傳人ありそひてこそは舞ふ

○ 七瀬川 裸踊

日伏見七瀬川の東薬師堂あり

今 疾は町の者法云と仍ひく後裸を小作りて踊ふ度日聖の裸踊小  
 け表は意うとさる人あまの葉を引止るくほを道む標踊の幸法  
 の國海大あふを  
 あり後編小出ん

○ 山崎 念会初

同必乙洲郡山崎八幡神官家より式あり

今 疾は新八幡の非官のあまの葉五七葉あり一上若ま下若ま  
 下 役人と石高尚あり一より傳へ一と書を取出一下若あり一若

○

の破換ありんかの中か道一は特な作佛理を加へよおの教の隆盛を願ふに  
 小乃よ一人く我益を互小集りて後者年の祝賀を定む其職よりさうり人免角  
 辨して氣氣小屏んとすう成引るて其職小辨する事附り日正月此愛  
 小免状と返を式あり是も西を交を法金の物より共の集りたるや  
 高任何小集り中成りせはは免状取らるる一寄の文書小集り  
 成押て後を事り今ハ西二紙渡り山崎の物送るは尚後と  
 神職の内年長有亦の人と折る御守はく神燈中の大小支を辨ひ  
 又石一山等小油賣またより職人等  
 可合もよふさ此のあやう業と見くす

○ 義入 今日より農工志の奴婢主家の職を傳へ九日教一兩日或る

○ 四日間の親里お返り休息一或神社佛堂小宿一陸を小道遠に往て

○ 在ぬ入と号に名義未詳或る書父へと書ん然ども是と云

○ 筆を小集り入と和倍の言小凡庸のものをやうと稱する例ま一二を備へ庸医  
 早門を馬并案金牛のたひ也奴婢の古の苦ゆくむさうとすは池小入ふとのま  
 早のの洞より一あくか宿への職添るる免状と文字と附せは及寧とささ  
 ヤブイリと判さるる侍従小辨人等して免状と印系と印寧とささ  
 五雜組之稱魯の人多し心月十六日とすり寺祝小辨とこれと走百病と云  
 是旧年城なる女今日親里よ返るる小辨と春て祝をさうけて十六併と云  
 所々不動尊同帳 今日用此あり

○ 真福寺燈起始 南に

○ 今晩虎燈最頭一七燈と燈を真福寺に燈の命を巡り大陽をみおわく

○ 五作と名引年申十二夜の大立と五作小法と五作小法と五作小法と

○ 聖山同寺中市中燈と僧人等法華經を見り是を若くは燈と云

○ 西大寺衆盛 南に七丈寺の其一也

○ 今日寺僧衆と燈を多しり氣盛の式あり流俗衆法華經と云

○ 妙見寺石賣 下徳ふあり 今日又九月十六日の兩日石賣

○ 念人 三河必去因ふあり 神傳

○ 天橋立龍燈 丹後國与謝郡ふあり

○ 今歳夜半の比屋敷の伴より就燈現ト文殊堂の方ふあり堂衆の板

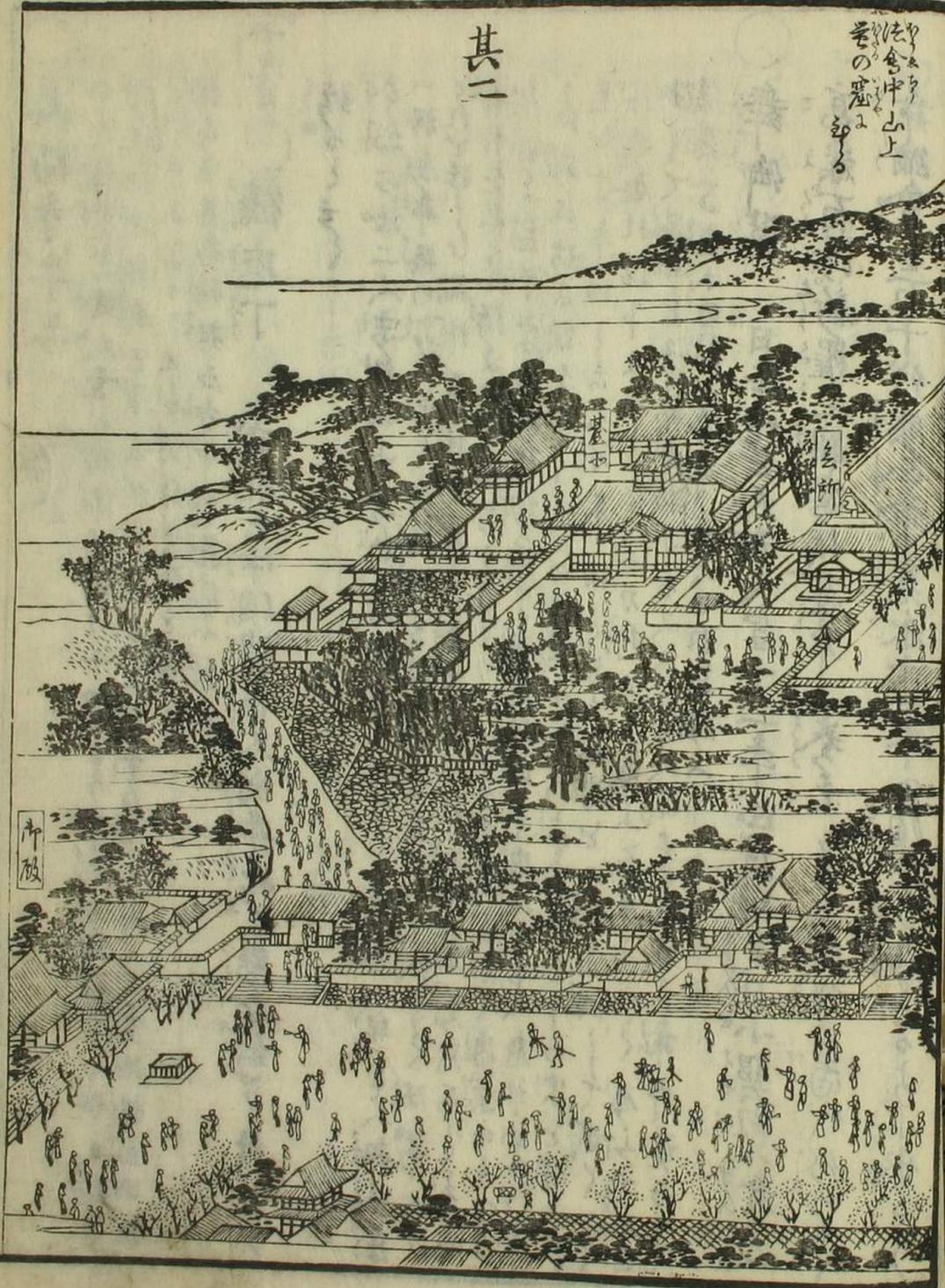
○ 十六楼 縁縁園道後より衣の方和氣山越村了恩寺の林中ふ

○ 様あり毎年今日花と寄ふは十六はうと云傳へ云ふ一の燈傳

○ けはうと燈極く燈は一奉病小川一今年様花を足るまでな合づさ

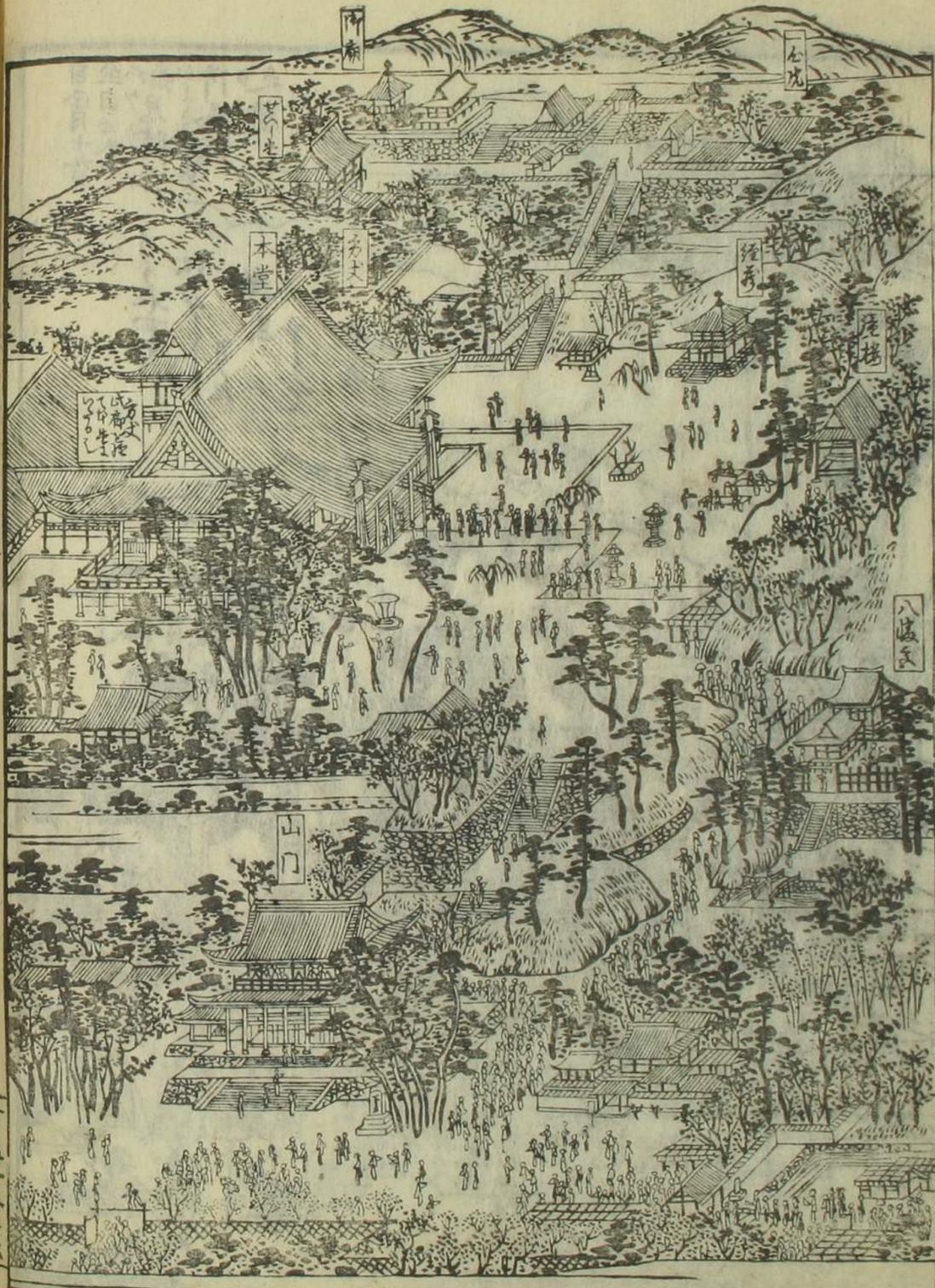






其二

やまの  
法會  
沖山  
上  
の  
屋  
の  
記



八  
波  
文

本  
堂

山  
門

七  
光

七  
光

七  
光

七  
光

寺  
名  
記

○真福寺牛王

南地

今日備後守五文の馬儀儀揚付十留より牛王加掛ありて今日札と  
御任下或那四下其札を信是と傳申し下ふれく幸内儀之は札  
と戸小掛りたるは是れ御札と傳申し  
終あり其札様板を寺中全儀儀不傳ふ

十九日

○鶴鹿丁

或記云中頃豊后大同元年始よ鶴を献せり

始るとま

今朝つ二人共妙板小幸妙無他等とのせく舞殿へ早き入極極  
一羽共妙板の上よ新市厨所寄指大隅両家の人紙入りて御  
これとは其御衣冠と恐り若き御下魚形次第ありて  
お札を去り後よ是を水とせりて御下魚形次第ありて  
お札を去り後よ是を水とせりて御下魚形次第ありて  
お札を去り後よ是を水とせりて御下魚形次第ありて  
お札を去り後よ是を水とせりて御下魚形次第ありて  
お札を去り後よ是を水とせりて御下魚形次第ありて  
お札を去り後よ是を水とせりて御下魚形次第ありて  
お札を去り後よ是を水とせりて御下魚形次第ありて  
お札を去り後よ是を水とせりて御下魚形次第ありて

舞御覽

日辛紀云天武天皇十二年正月朔是日小皇孫の舞及

高麗百濟新羅三國樂法存乎小奏とて或記云高代の舞及

舞御會は百十代明正帝寬永十一年の頃より始るとま

初は十七日ありて後よ一城東の院の御守意代の例日を用らるるや

十八日や形つゆとま

宋家版の庭上よ舞臺を儀入両色小籠を被を建り御下魚形次第ありて  
とすの々舞樂の奏階と作り是と人よ揚り其後左右の樂と奏と  
是れは百二十名の舞踏あり御下魚形次第ありて  
御下魚形次第ありて

御會始

和歌御勅或二系家冷泉家遊世或は御下魚形次第ありて  
御下魚形次第ありて

今日新率御家御下魚形次第ありて

又今日大筆林以月次の御下魚形次第ありて

大板 洛東吉岡ト御下魚形次第ありて

と夜神楽也八幡の夜神楽も月トヤ

今日新率御家御下魚形次第ありて

又今日大筆林以月次の御下魚形次第ありて

大板 洛東吉岡ト御下魚形次第ありて

と夜神楽也八幡の夜神楽も月トヤ

今日新率御家御下魚形次第ありて

又今日大筆林以月次の御下魚形次第ありて

大板 洛東吉岡ト御下魚形次第ありて

と夜神楽也八幡の夜神楽も月トヤ

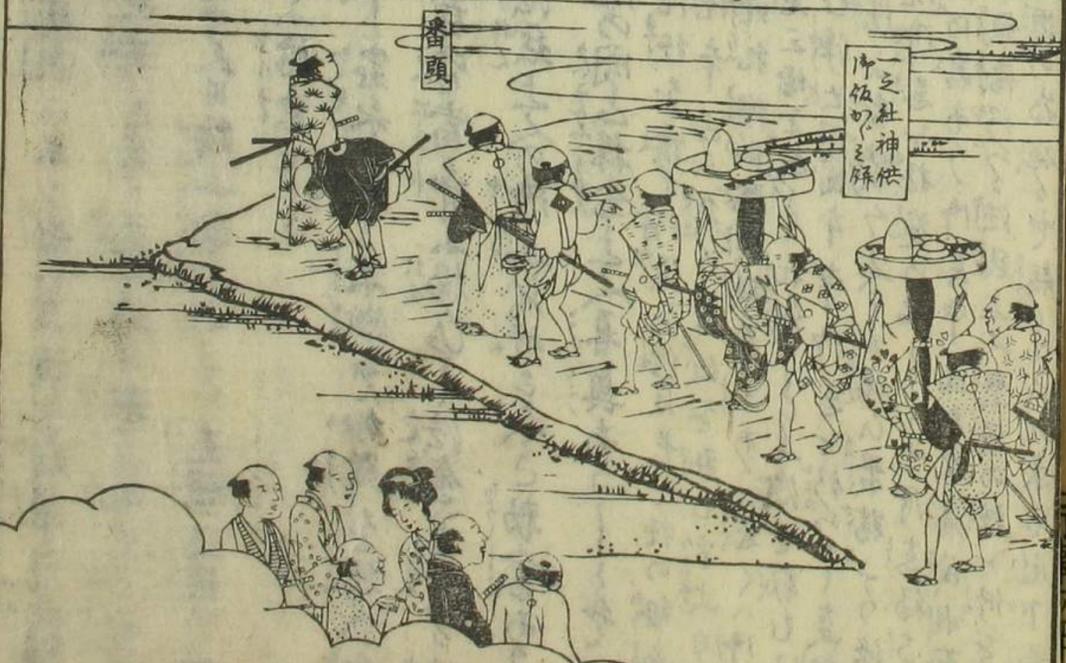
今日新率御家御下魚形次第ありて

又今日大筆林以月次の御下魚形次第ありて

大板 洛東吉岡ト御下魚形次第ありて



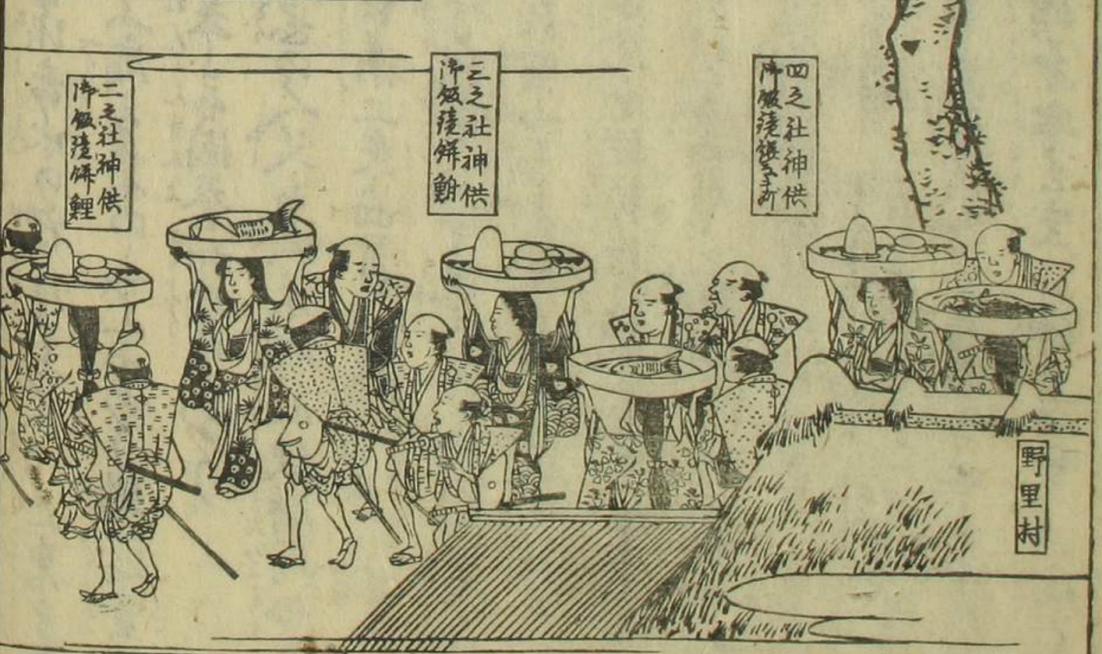
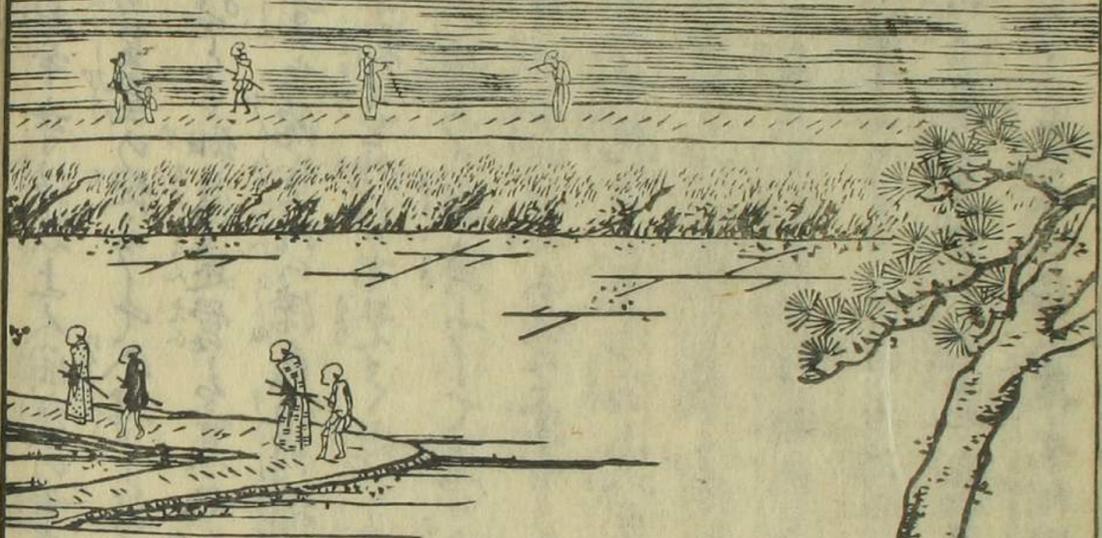
中津川  
の  
場



番頭

一之社神供  
淨飯の之解

正月廿日  
振列聖里村  
浄頭糸之圖  
俗小一夜女と云



二之社神供  
淨飯蔭餅

三之社神供  
淨飯蔭餅

四之社神供  
淨飯蔭餅

野里村

為小遣擇集城述くこれと置ん建永二年春二月後高洞帝の送鱗  
によろく空を濳州より遷せられ建曆元年免さるく都小帰る大昔小  
僧凡院是あり日二年疾月深二月廿六日頭水面あり光明適照の偈  
と彌して寂と年八十紫雲房上下降垂とく

元禄十年法然と園光大師と過一室永八年東漸せ加路を湯の室  
曆十一年惠成大師や遷号論旨皆當寺小細ひく法舎と仍る所  
忌の夏後拍原後宗良院の二帝法然上人の神忌弘修まへに勅書ありて  
仍小迫善法舎退轉ありし誠一心院の岡山林念上人再興ありしとせ  
十八日より莊嚴一其夜僧侶阿は陀徑を傳へ修ん是と經の經毎と  
り今日より廿八日ナテ末の宿は幸少集り各段を報むが十日  
三時午堂寂し法友あり林陀徑に禮佛散華あり悉く神忌  
法要小ゆりけ舎中末寺の長老二僧と撰く初儀とく法と報む子の  
料ののく茶十三杯紙中寺よ納む津古に箇本寺神忌と仍るく夏担  
し神よ智恩院よりく才一とく修ん夜裝くく云嶺の最勝より洛中  
津中不遊樂多く初去智恩院神忌と撰ぬの始とく十月末嶺寺岡  
山忌を撰ぬの傍りたあり希奇始の名あり神忌中西九条農民茶と  
津古に箇寺の厨は箇中在村夜齋仍る法上人紫麻の法と修る  
るれよりく一村其哭と免るる不精恩の傍るや軽くく九条と殿下兼室

諸國

廿日

公の御ありて所願願下り今この東嶺は昔月輪の地あり殿下へ上人  
淨依あり其因ありなり修る不あり人免智恩院津中嶺山入半  
免ん山腹小室の窓あり修ぬ修ぬして殿下所報すい童抄市とる  
寺の午堂東南の天井室本の間小右傘とる一寺なり  
今日庶民遊遊して園徳と舎ん系之坂とる新年の  
嘉祥と報と用由今日其骨と煮熟し舎ん坂小骨正月と云  
野里一夜宮女 攝津園西成郡聖里村小あり衆神信古の神傳云性  
昔は地小乃依渡者といふ者あり常小信古の神と崇信と或和の養老老翁  
告て云我々信古明神なりは地小跡を童人近日東方の深淵とて其地とん  
は危しとて養老より乃依渡者二人を幸ひ神信裡魚鱒魚鱒魚鱒  
月標され少女小持りて深淵小なる所小儀然とて風雨起り雲倒とよ  
處ハ白波とよく真然如況と人思わく走り去乃依渡者一身幼をん  
し神の出現する夏と信古聖附ありて河上波聲ありて白月小復し  
水面より一の神雲とるむ是と崇り社所建の時小嘉和二年正月廿日と云  
ありてより今よは神衆あり

梅溪の遊宴之圖



後古 義孝  
春風乃  
吹く所  
梅の花  
梢の外  
まはる



廿二日

太秦大會

洛西太秦廣隆寺太子雲々法喜音樂あり

廿三日

相馬妙見祭

下総園あり

廿六日

鐵炮洲高輪月待

今夜男女群集して月を相見

三十日

清水寺幸式連袂

今日より月六坊小旗々勅之文依連守派日役半

○

是月天幸清調する日男子も亦小物々ゆりくとおび或は作る小籠打

破魔弓と射まこと種打ちなどの紙を形一内ふあつ射と室引道中變六

為子供く遊びをらん女子亦小物々い形作る月小旗い手まらと共

婦しと都鄙是るる支あり物々世々此紙止小兒背懸の氣を懐

陽雲の字小旗い伸まむ一物よりや

○

是月下旬梅花盛のんる形下の千旗伏見梅溪小遊宴ありあひる

源誠小山の巻と吟詠して野梅の傍と探りありあひる

也る梅花枝小多く旗の雪吹歌ささくを信法者社小満架橋

也る清香結合辰玉房の聲を御神祓も亦小物々

